

平成29年度

栃木県政世論調査

調査報告書（概要版）

平成29年10月

栃木県

目 次

I	調査の概要	1
II	調査の結果	2
1	暮らしの変化について	
	(1) 暮らしの変化	2
	(1-1) 暮らしが悪くなった理由	3
	(2) 暮らしの満足度	4
	(3) 今後の暮らしの状況	5
	(4) 今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
	(1) 県政への要望	7
3	日常生活について	
	(1) 文化・芸術活動について	10
	(2) スポーツ活動について	11
	(3) 住んでいる地域について	12
4	栃木県への愛着と誇りについて	
	(1) 栃木県に対する愛着	13
	(1-1) 栃木県に愛着を感じる理由	14
	(1-2) 栃木県に愛着を感じない理由	15
	(2) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの	16
	(3) 「VERY GOOD LOCAL とちぎ」の認知度	17
5	社会貢献活動について	
	(1) 社会貢献活動の参加状況	18
6	地域防災について	
	(1) 災害に対する備え	19
	(2) 災害が発生したときなどの緊急時の情報入手手段	20
	(3) 防災訓練の参加状況	21
	(3-1) 参加したことがある防災訓練	22
	(3-2) 防災訓練に参加したことがない理由・今後参加したいと思わない理由	23

7 とちぎの交通マナーについて	
(1) 県内のドライバーの交通マナーの良さ	24
(1-1) 交通マナーが悪いと思うドライバー層	25
(1-2) 危険を感じる・交通マナーが悪いと感じるドライバーの運転行為	26
(2) ドライバーの交通マナー向上のための取組	27
(3) 交通マナーやルールについて見聞きした機会・媒体	28
8 男女平等意識について	
(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感	29
(2) 働く場での男女の地位の平等感	30
(3) 固定的な性別役割分担意識	31
(4) 男女平等な社会を推進していくための県の取組	32
9 とちぎの元気な森づくり県民税について	
(1) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の認知度	33
10 食の安全・安心について	
(1) 食品の安全性に対する不安	34
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの	35
(2) 食品を購入するときに気を付けること	36
(3) 食の安全に関する情報の取得方法	37
(4) 「HACCP（ハサップ）」の認知度	38
11 食に関する意識と実践について	
(1) 食事の際「いただきます」を言っているか	39
(2) 農業体験をした経験	40
(3) 他の人と一緒に食事をする頻度	41
(3-1) 他の人と一緒に食事をするとき	42
(4) 和食の継承について実践していること	43
12 犯罪と治安対策について	
(1) 県内の治安状況	44
(2) 不安を感じる犯罪	45
(2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由	46
(3) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動	47
(4) 交通事故を抑止するための対策	48

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

2 調査項目

- | | |
|---------------------|------------------------|
| (1) 暮らしの変化について* | (7) とちぎの交通マナーについて※ |
| (2) 県政への要望について* | (8) 男女平等意識について |
| (3) 日常生活について* | (9) とちぎの元気な森づくり県民税について |
| (4) 栃木県への愛着と誇りについて※ | (10) 食の安全・安心について |
| (5) 社会貢献活動について | (11) 食に関する意識と実践について |
| (6) 地域防災について | (12) 犯罪と治安対策について |

(※印は時系列調査、※印は新規調査)

3 調査設計

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布一郵送回収） |
| (6) 調査時期 | 平成29年5月22日～6月13日 |

4 調査機関

株式会社エスピー研

5 回収結果

回収数（率） 1,304（65.2%）

6 報告書の見方

- (1) 各調査項目について、全体、性別、性／年齢別及び過去の調査結果との比較（一部項目のみ）を掲載した。
- (2) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (3) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (4) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (5) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (6) 性／年齢別の分析の説明では、男性18～19歳の回答者は11人、女性18～19歳の回答者は7人と少ないため、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、一律にふれていない。

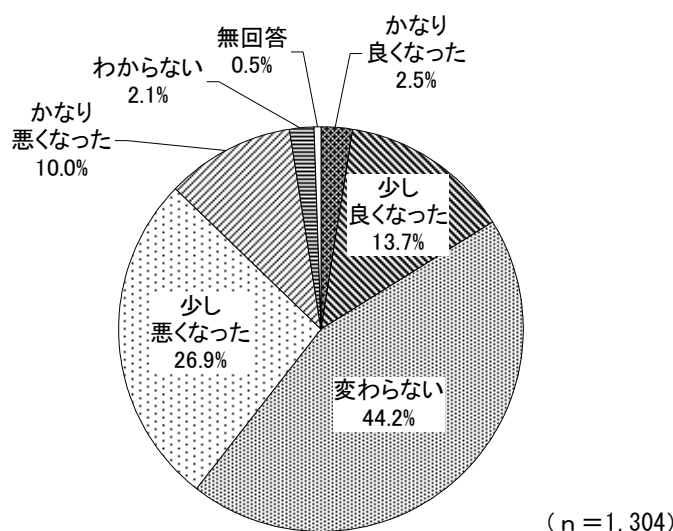
II 調査の結果

1 暮らしの変化について

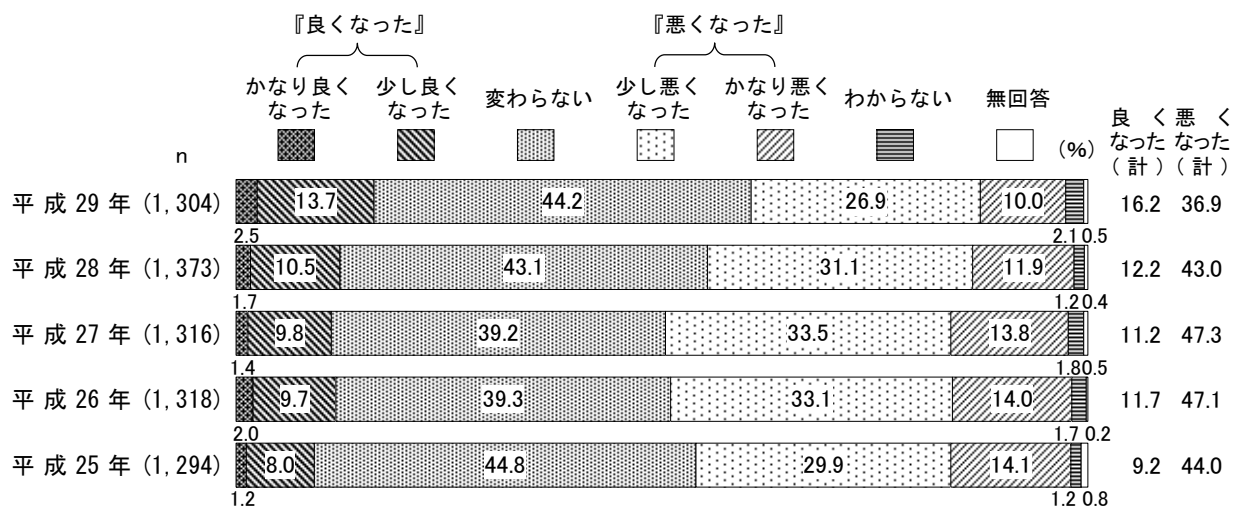
(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,304]



- 全体で見ると、「かなり良くなった」(2.5%)と「少し良くなった」(13.7%)の2つを合わせた『良くなった』(16.2%)は1割半ばとなっている。一方、「少し悪くなった」(26.9%)と「かなり悪くなった」(10.0%)の2つを合わせた『悪くなった』(36.9%)は4割近くとなっている。また、「変わらない」(44.2%)は4割半ばとなっている。
- 性別で見ると、『良くなった』では〈男性〉(17.5%)が〈女性〉(14.8%)より2.7ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性30歳代〉が29.2%、〈男性20歳代〉が27.3%、〈女性20歳代〉が26.3%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性65～69歳〉が47.3%、〈女性60～64歳〉が46.4%、〈男性60～64歳〉が45.7%、〈男性65～69歳〉が45.1%と高くなっている。

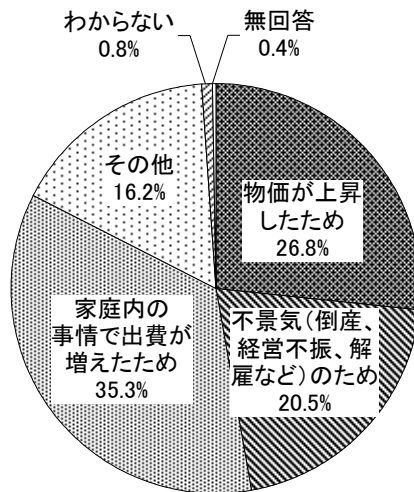


- 過去の調査結果と比較すると、『良くなった』が前回(平成28年)より4.0ポイント増加している。一方、『悪くなった』が前回(平成28年)より6.1ポイント減少している。

(1-1) 暮らしが悪くなった理由

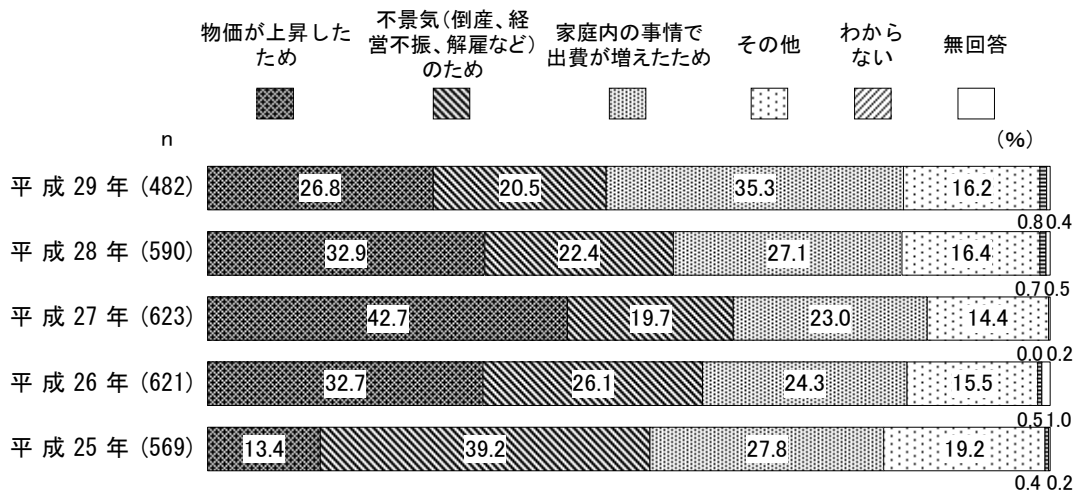
(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=482]



(n=482)

- 全体で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」(35.3%)が3割半ばで最も高く、次いで「物価が上昇したため」(26.8%)、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(20.5%)の順となっている。
- 性別で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉(40.1%)が〈男性〉(29.0%)より11.1ポイント高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性〉(23.5%)が〈女性〉(18.3%)より5.2ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性30歳代〉が66.7%、〈女性40歳代〉が58.3%と高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉が41.4%、〈女性70歳以上〉が39.2%と高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性20歳代〉が30.0%、〈男性65~69歳〉が29.7%、〈男性30歳代〉が29.4%と高くなっている。

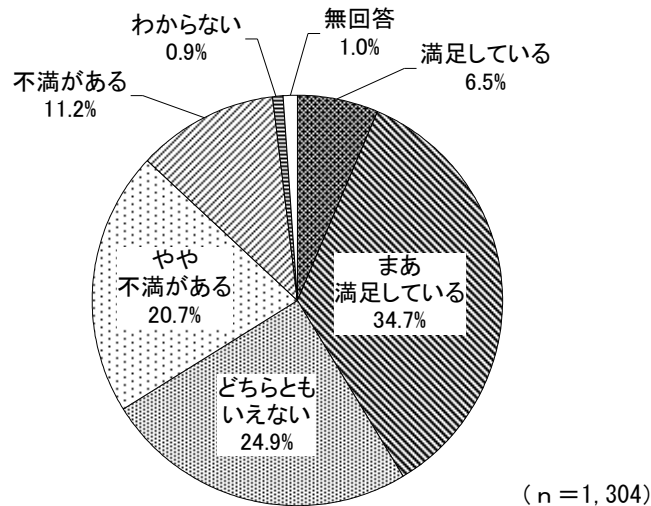


- 過去の調査結果と比較すると、「家庭内の事情で出費が増えたため」が前回(平成28年)より8.2ポイント増加しており、平成27年(23.0%)以降増加傾向にある。一方、「物価が上昇したため」が前回(平成28年)より6.1ポイント減少しており、平成27年(42.7%)以降減少傾向にある。

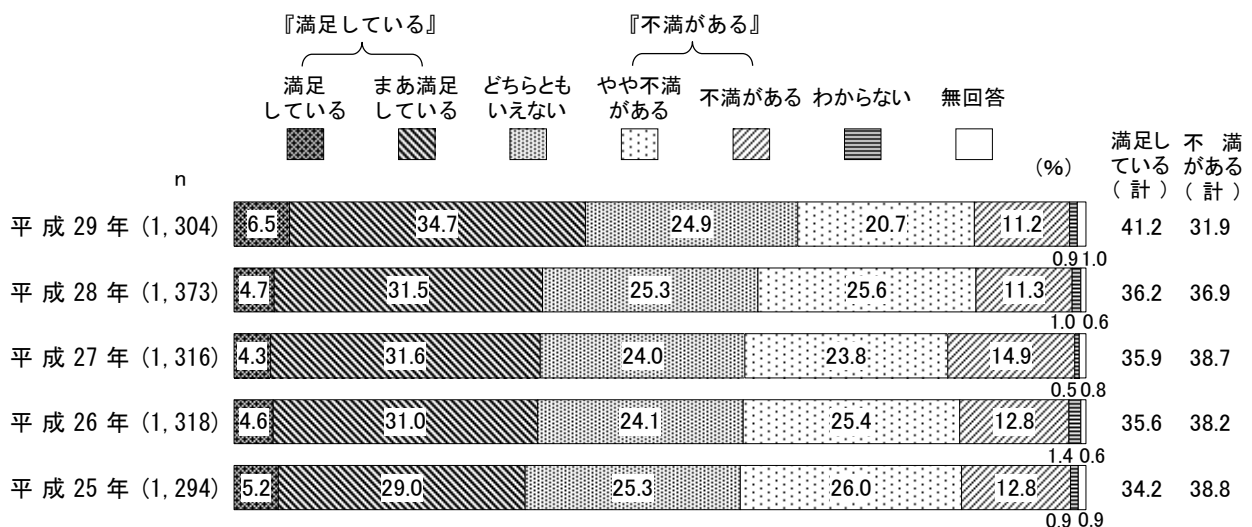
(2) 暮らしの満足度

問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,304]



- 全体で見ると、「満足している」(6.5%)と「まあ満足している」(34.7%)の2つを合わせた『満足している』(41.2%)は4割を超えている。一方、「やや不満がある」(20.7%)と「不満がある」(11.2%)の2つを合わせた『不満がある』(31.9%)は3割を超えている。また、「どちらともいえない」(24.9%)は2割半ばとなっている。
- 性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- 性/年齢別で見ると、『満足している』では〈女性20歳代〉が54.1%、〈男性30歳代〉が51.4%、〈男性20歳代〉が50.0%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性65~69歳〉と〈女性50歳代〉がともに39.1%と高くなっている。

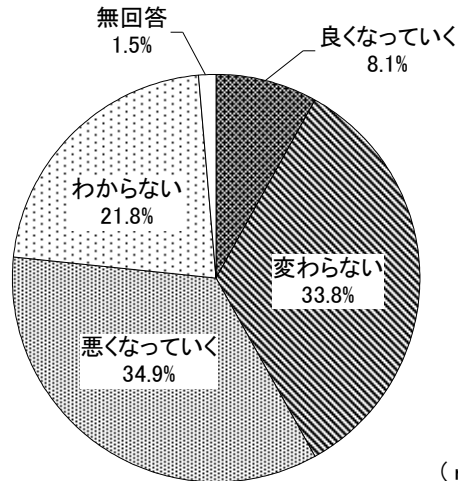


- 過去の調査結果と比較すると、『満足している』が前回(平成28年)より5.0ポイント増加している。一方、『不満がある』が前回(平成28年)より5.0ポイント減少している。

(3) 今後の暮らしの状況

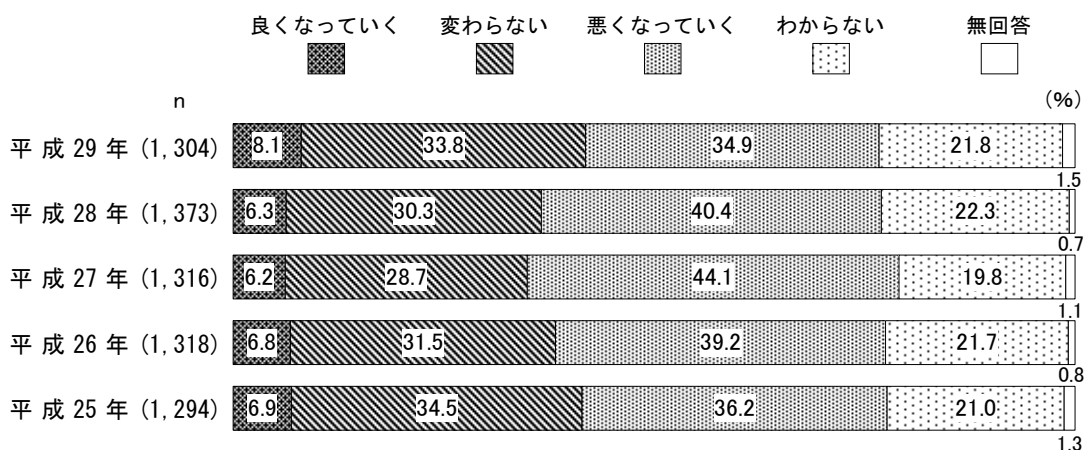
問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,304]



(n=1,304)

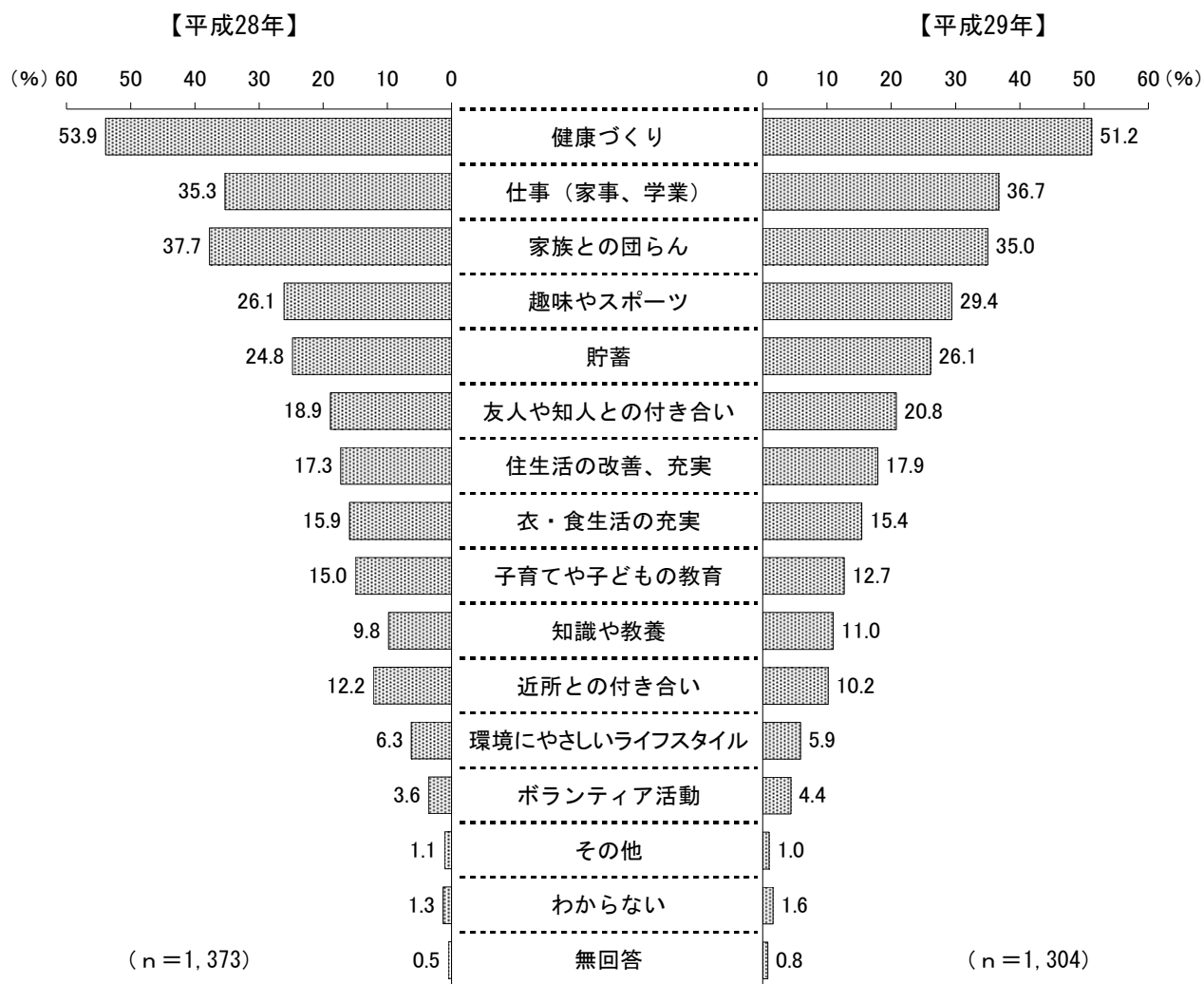
- ・全体で見ると、「良くなっていく」(8.1%)は1割近くとなっている。「変わらない」(33.8%)は3割を超えており、「悪くなっていく」(34.9%)は3割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「良くなっていく」では〈男性〉(9.7%)が〈女性〉(6.8%)より2.9ポイント高くなっている。一方、「悪くなっていく」でも〈男性〉(37.7%)が〈女性〉(32.7%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈男性20歳代〉が25.0%、〈女性30歳代〉が19.7%、〈男性30歳代〉が19.4%と高くなっている。「変わらない」では〈女性70歳以上〉が44.2%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性65~69歳〉が59.8%、〈女性65~69歳〉が55.3%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」が前回(平成28年)より5.5ポイント減少している。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n = 1,304]

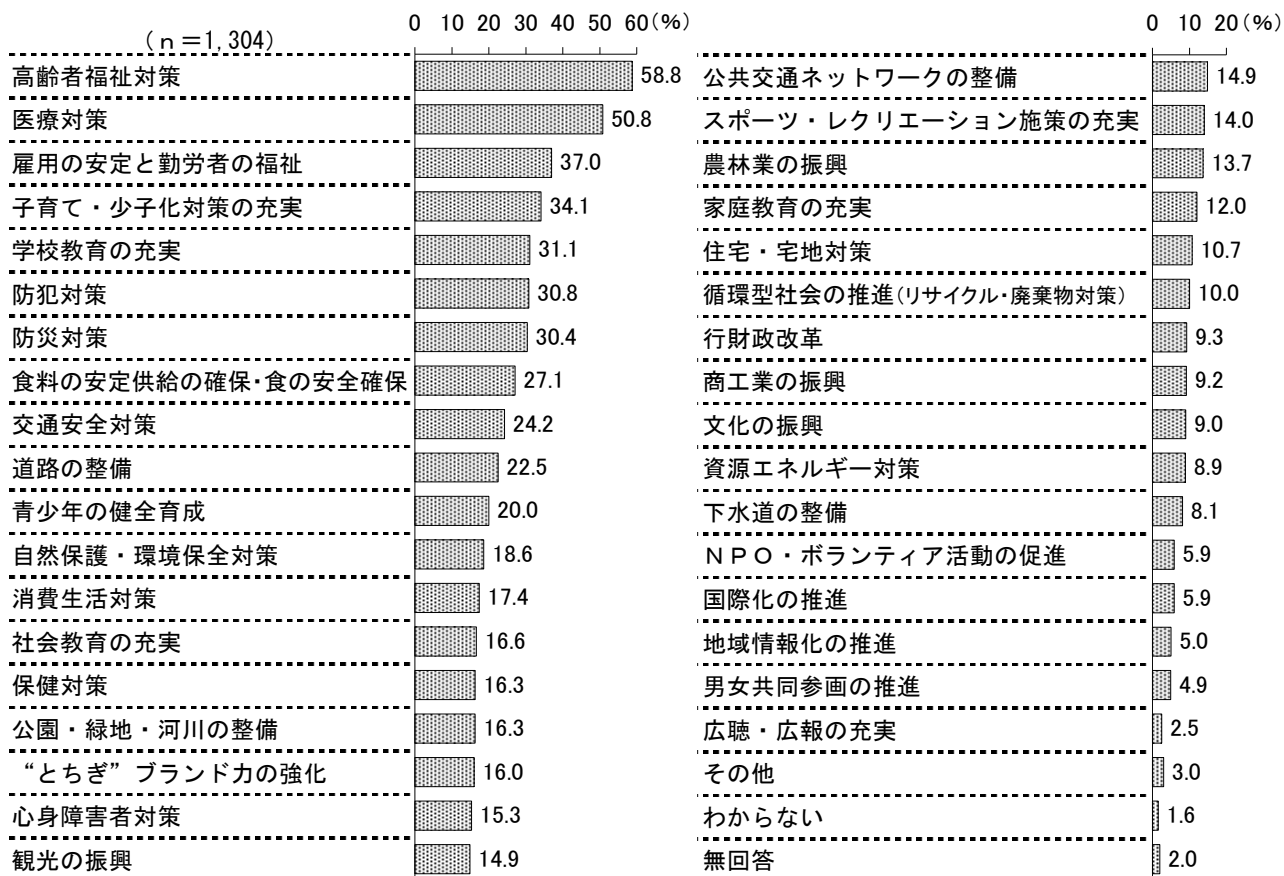


- ・全体で見ると、「健康づくり」(51.2%)が5割を超えて最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(36.7%)、「家族との団らん」(35.0%)、「趣味やスポーツ」(29.4%)、「貯蓄」(26.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(37.0%)が〈女性〉(22.4%)より14.6ポイント高くなっている。「知識や教養」では〈男性〉(14.4%)が〈女性〉(8.0%)より6.4ポイント高くなっている。「貯蓄」では〈女性〉(28.7%)が〈男性〉(23.1%)より5.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈女性65～69歳〉が76.3%、〈女性70歳以上〉が71.8%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が65.9%、〈女性20歳代〉が63.9%と高くなっている。「家族との団らん」では〈男性30歳代〉が50.0%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性60～64歳〉が54.2%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が48.7%、〈男性30歳代〉が40.3%と高くなっている。
- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「趣味やスポーツ」が3.3ポイント増加している。一方、「健康づくり」と「家族との団らん」がともに2.7ポイント減少している。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な “とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,304]



- ・全体で見ると、「高齢者福祉対策」(58.8%)が6割近くで最も高く、次いで「医療対策」(50.8%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(37.0%)、「子育て・少子化対策の充実」(34.1%)、「学校教育の充実」(31.1%)、「防犯対策」(30.8%)、「防災対策」(30.4%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(27.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈女性〉(62.7%)が〈男性〉(54.6%)より8.1ポイント高くなっている。「道路の整備」では〈男性〉(26.7%)が〈女性〉(18.7%)より8.0ポイント高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(30.5%)が〈男性〉(23.4%)より7.1ポイント高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性〉(40.1%)が〈男性〉(34.3%)より5.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈女性70歳以上〉が81.4%、〈男性70歳以上〉が74.5%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈男性20歳代〉が56.8%、〈女性20歳代〉が54.1%と高くなっている。「子育て・少子化対策の充実」では〈女性30歳代〉が68.4%、〈男性30歳代〉が62.5%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が52.6%と高くなっている。「交通安全対策」では〈女性20歳代〉が41.0%と高くなっている。

[過去の調査結果一年齢別]

(上位5項目)

年齢	順位 年	順位				
		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	平成29年 (n=1,304)	高齢者福祉対策 58.8%	医療対策 50.8%	雇用の安定と勤労者の 福祉 37.0%	子育て・少子化対策 の充実 34.1%	学校教育の充実 31.1%
	平成28年 (n=1,373)	高齢者福祉対策 60.6%	医療対策 50.4%	雇用の安定と勤労者の 福祉 40.9%	子育て・少子化対策 の充実 38.7%	防犯対策 34.2%
	平成27年 (n=1,316)	高齢者福祉対策 59.7%	医療対策 50.5%	雇用の安定と勤労者の 福祉 41.7%	消費生活の安定(※) 38.5%	子育て・少子化対策 の充実 36.9%
	平成26年 (n=1,318)	高齢者福祉対策 57.6%	医療対策 51.7%	雇用の安定と勤労者の 福祉 45.4%	消費生活の安定(※) 38.0%	子育て・少子化対策 の充実 35.8%
	平成25年 (n=1,294)	高齢者福祉対策 58.0%	医療対策 54.9%	雇用の安定と勤労者の 福祉 46.6%	子育て・少子化対策 の充実 35.5%	学校教育の充実 35.1%
20 〜 39 歳	平成29年 (n=253)	子育て・少子化対策 の充実 56.9%	雇用の安定と勤労者の 福祉 49.8%	医療対策 46.6%	学校教育の充実 41.1%	高齢者福祉対策/ 防犯対策 34.8%
	平成28年 (n=249)	子育て・少子化対策 の充実 58.6%	雇用の安定と勤労者の 福祉 46.2%	医療対策 45.0%	学校教育の充実 43.8%	防犯対策 36.9%
	平成27年 (n=259)	子育て・少子化対策 の充実 54.1%	雇用の安定と勤労者の 福祉 49.8%	医療対策 45.6%	学校教育の充実 36.7%	消費生活の安定(※) 36.3%
	平成26年 (n=249)	雇用の安定と勤労者の 福祉 53.4%	子育て・少子化対策 の充実 48.2%	医療対策 47.8%	学校教育の充実 40.2%	消費生活の安定(※) 36.5%
	平成25年 (n=278)	雇用の安定と勤労者の 福祉 56.5%	子育て・少子化対策の充実/医療対策 53.2%		学校教育の充実 41.4%	消費生活の安定(※) 32.0%
40 〜 59 歳	平成29年 (n=389)	高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 55.0%	雇用の安定と勤労者の 福祉 42.7%	学校教育の充実 36.5%	子育て・少子化対策 の充実 35.2%
	平成28年 (n=436)	高齢者福祉対策 57.3%	医療対策 51.4%	雇用の安定と勤労者の 福祉 50.5%	子育て・少子化対策 の充実 39.7%	防犯対策 36.2%
	平成27年 (n=425)	医療対策 53.6%	高齢者福祉対策 53.2%	雇用の安定と勤労者の 福祉 48.2%	子育て・少子化対策 の充実 37.9%	消費生活の安定(※) 36.2%
	平成26年 (n=434)	高齢者福祉対策 53.9%	雇用の安定と勤労者の 福祉 53.2%	医療対策 50.7%	消費生活の安定(※) 38.9%	子育て・少子化対策 の充実 35.9%
	平成25年 (n=388)	医療対策 57.5%	高齢者福祉対策 55.9%	雇用の安定と勤労者の 福祉 54.9%	消費生活の安定(※) 36.1%	学校教育の充実 33.2%
60 〜 69 歳	平成29年 (n=301)	高齢者福祉対策 65.1%	医療対策 48.5%	雇用の安定と勤労者の 福祉 34.9%	子育て・少子化対策 の充実 30.9%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保/ 防災対策 29.6%
	平成28年 (n=331)	高齢者福祉対策 69.8%	医療対策 51.4%	雇用の安定と勤労者の 福祉 39.3%	子育て・少子化対策 の充実 36.9%	防災対策 36.6%
	平成27年 (n=325)	高齢者福祉対策 67.7%	医療対策 49.2%	雇用の安定と勤労者の 福祉 39.4%	消費生活の安定(※) 38.8%	子育て・少子化対策の充実 /食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.4%
	平成26年 (n=317)	高齢者福祉対策 66.9%	医療対策 53.0%	雇用の安定と勤労者の 福祉 38.2%	消費生活の安定(※) 37.5%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 33.1%
	平成25年 (n=312)	高齢者福祉対策 65.4%	医療対策 55.1%	雇用の安定と勤労者の 福祉 43.3%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 39.4%	消費生活の安定(※) 34.9%
70 歳 以上	平成29年 (n=323)	高齢者福祉対策 78.0%	医療対策 51.7%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 32.5%	交通安全対策 31.0%	防犯対策 27.9%
	平成28年 (n=333)	高齢者福祉対策 75.7%	医療対策 52.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.7%	防犯対策 31.8%	防災対策 30.3%
	平成27年 (n=273)	高齢者福祉対策 82.8%	医療対策 52.7%	消費生活の安定(※) 44.0%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 39.6%	防犯対策 32.2%
	平成26年 (n=269)	高齢者福祉対策 74.3%	医療対策 56.1%	消費生活の安定(※) 39.8%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 36.8%	雇用の安定と勤労者の 福祉 35.3%
	平成25年 (n=267)	高齢者福祉対策 78.3%	医療対策 55.1%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 39.7%	消費生活の安定(※) 38.2%	学校教育の充実 33.0%

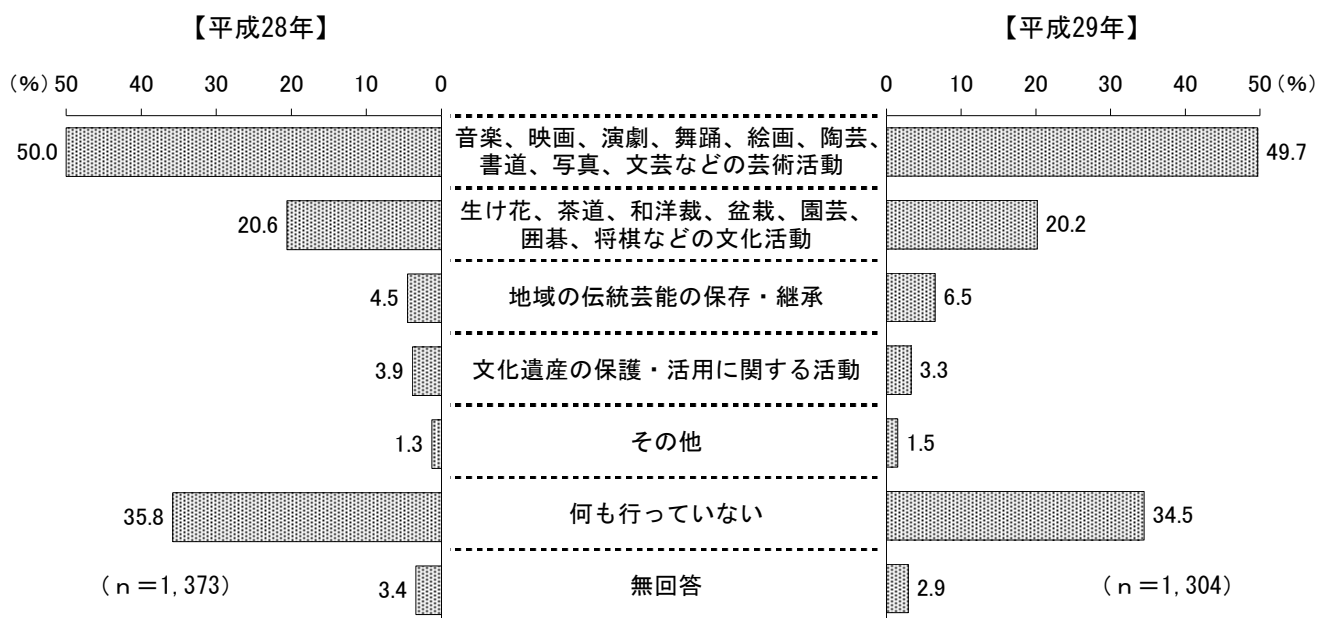
※「消費生活対策」の選択肢は、平成27年以前では「消費生活の安定」としていた。

- ・ 上位 5 項目について、全体及び 4 区分した年齢層別に過去の調査結果と比較すると、全体では、平成 25 年以降上位 3 項目は同じ順位となっている。また、「子育て・少子化対策の充実」は平成 25 年以降 4 位または 5 位となっている。
- ・ 20～39 歳では、平成 25 年以降「子育て・少子化対策の充実」と「雇用の安定と勤労者の福祉」が上位 2 項目となっている。また「医療対策」は、平成 25 年は 2 位、平成 26 年以降は 3 位となっており、「学校教育の充実」は平成 25 年以降 4 位となっている。
- ・ 40～59 歳では、平成 25 年以降「高齢者福祉対策」と「医療対策」、「雇用の安定と勤労者の福祉」が上位 3 項目となっている。
- ・ 60～69 歳では、平成 25 年以降「高齢者福祉対策」が 1 位、「医療対策」が 2 位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が 3 位となっている。
- ・ 70 歳以上では、平成 25 年以降「高齢者福祉対策」が 1 位、「医療対策」が 2 位、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が 3 位または 4 位となっている。

3 日常生活について

(1) 文化・芸術活動について

問6 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,304]



- ・全体で見ると、「音楽、映画、演劇、舞踊、絵画、陶芸、書道、写真、文芸などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（49.7%）が5割で最も高く、次いで「生け花、茶道、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」（20.2%）が2割となっている。一方、「何も行っていない」（34.5%）は3割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『芸術活動』では〈女性〉（52.9%）が〈男性〉（46.2%）より6.7ポイント高くなっている。『文化活動』では〈女性〉（23.3%）が〈男性〉（17.4%）より5.9ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、『芸術活動』では〈女性20歳代〉が73.8%、〈男性20歳代〉が65.9%と高くなっている。『文化活動』では〈女性70歳以上〉が33.3%と高くなっている。「何も行っていない」では〈男性40歳代〉が49.4%と高くなっている。
- ・前回（平成28年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

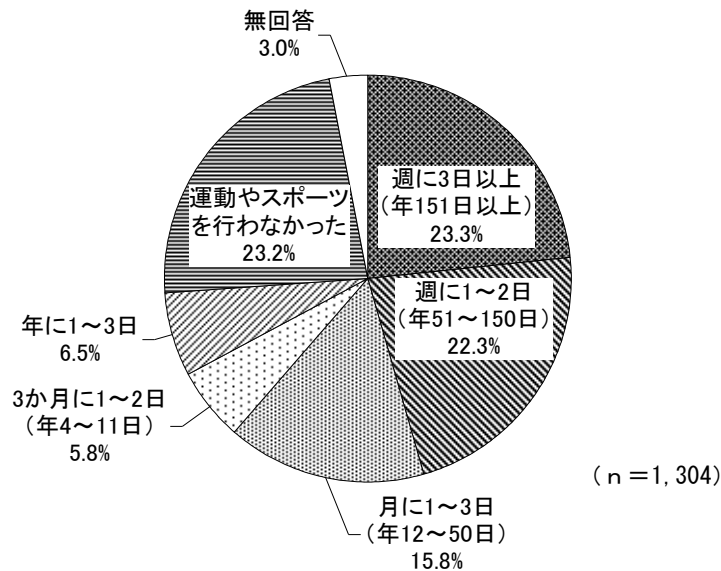
(2) スポーツ活動について

問7 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ（※）を行いましたか。

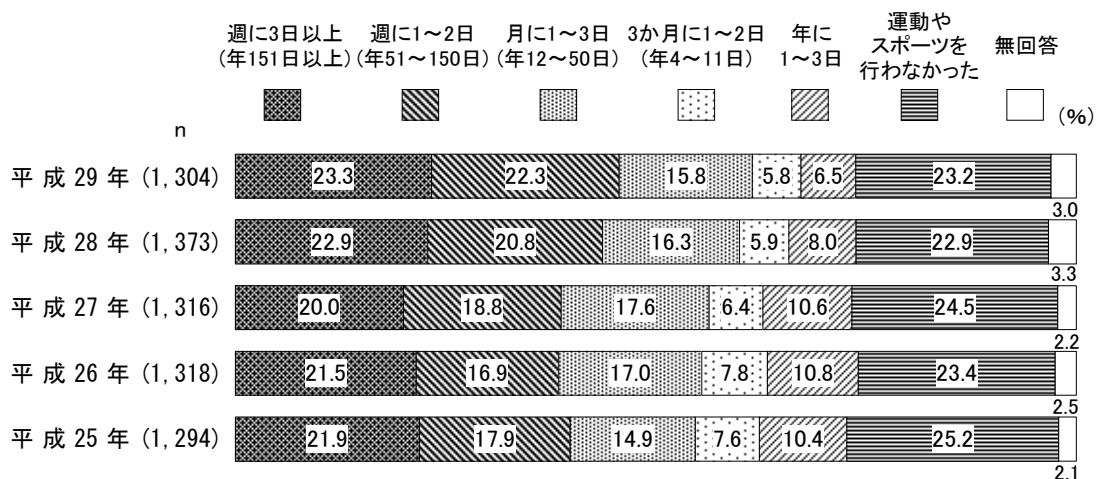
次の中から1つ選んでください。

[n=1,304]

※ 運動やスポーツには、ウォーキング（歩け歩け運動、散歩などを含む）、ジョギング、体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む）、室内運動器具を使ってする運動、ニュースポーツ（ゲートボール、グラウンドゴルフ、インディアカなどを含む）、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングなどを含みます。



- ・全体で見ると、「週に3日以上（年151日以上）」（23.3%）と「週に1~2日（年51~150日）」（22.3%）はともに2割を超えており、「月に1~3日（年12~50日）」（15.8%）は1割半ばとなっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」（23.2%）は2割を超えている。
- ・性別で見ると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈男性〉（25.2%）が〈女性〉（21.7%）より3.5ポイント高くなっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈女性〉（25.1%）が〈男性〉（20.5%）より4.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈男性70歳以上〉が37.0%、〈女性65~69歳〉が32.9%と高くなっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈女性30歳代〉が36.8%と高くなっている。

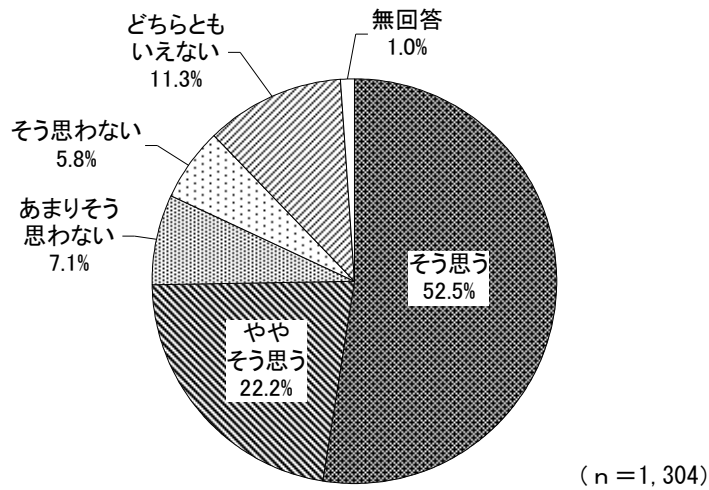


- ・過去の調査結果と比較すると、前回（平成28年）と大きな傾向の違いはみられない。

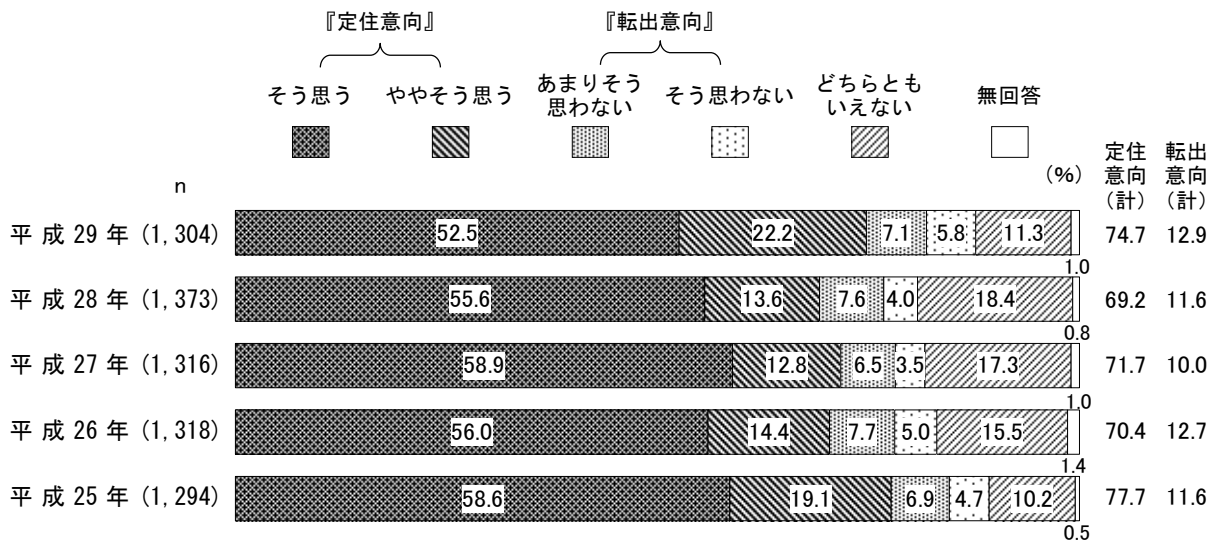
(3) 住んでいる地域について

問8 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1,304]



- ・全体でみると、「そう思う」(52.5%)と「ややそう思う」(22.2%)の2つを合わせた『定住意向』(74.7%)は7割半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(7.1%)と「そう思わない」(5.8%)の2つを合わせた『転出意向』(12.9%)は1割を超えている。
- ・性別でみると、『定住意向』と『転出意向』の割合に大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別でみると、『定住意向』では〈男性70歳以上〉が83.7%、〈女性70歳以上〉が81.4%、〈女性60～64歳〉が81.0%と高くなっている。一方、『転出意向』では〈男性20歳代〉が22.8%と高くなっている。



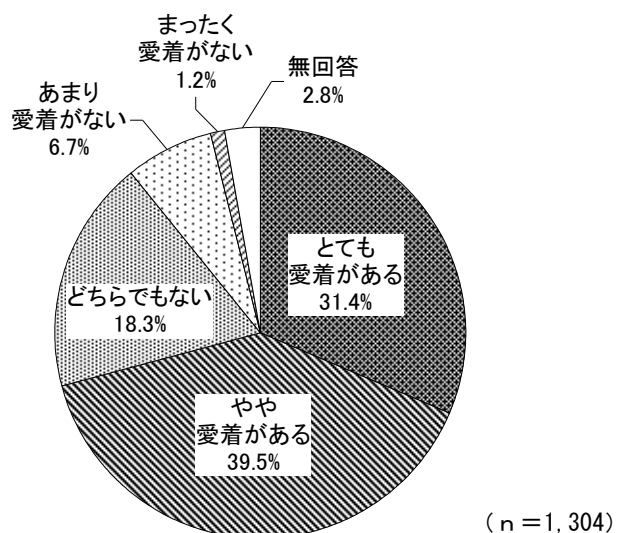
- ・過去の調査結果と比較すると、『定住意向』が前回(平成28年)より5.5ポイント増加している。

4 栃木県への愛着と誇りについて

(1) 栃木県に対する愛着

問9 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 304]



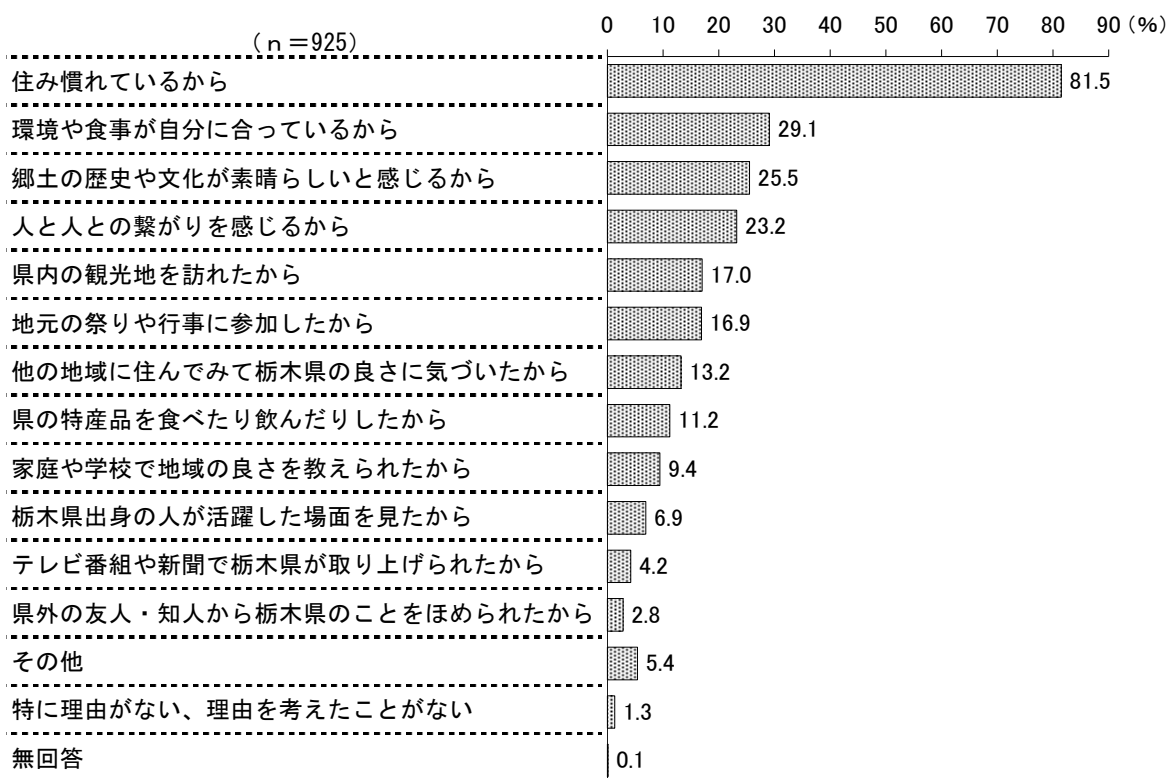
- ・全体で見ると、「とても愛着がある」(31.4%)と「やや愛着がある」(39.5%)の2つを合わせた『愛着がある』(70.9%)はほぼ7割となっている。一方、「あまり愛着がない」(6.7%)と「まったく愛着がない」(1.2%)の2つを合わせた『愛着がない』(7.9%)は1割近くとなっている。また、「どちらでもない」(18.3%)は2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「とても愛着がある」では〈女性20歳代〉が39.3%、〈男性60～64歳〉が37.3%と高くなっている。『愛着がある』では〈女性20歳代〉が80.3%と高くなっている。一方、『愛着がない』では〈男性30歳代〉が16.7%と高くなっている。

(1-1) 栃木県に愛着を感じる理由

(問9で選択肢「とても愛着がある」、「やや愛着がある」を選んだ方のみお答えください)

問9-1 あなたが愛着を感じる理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=925]



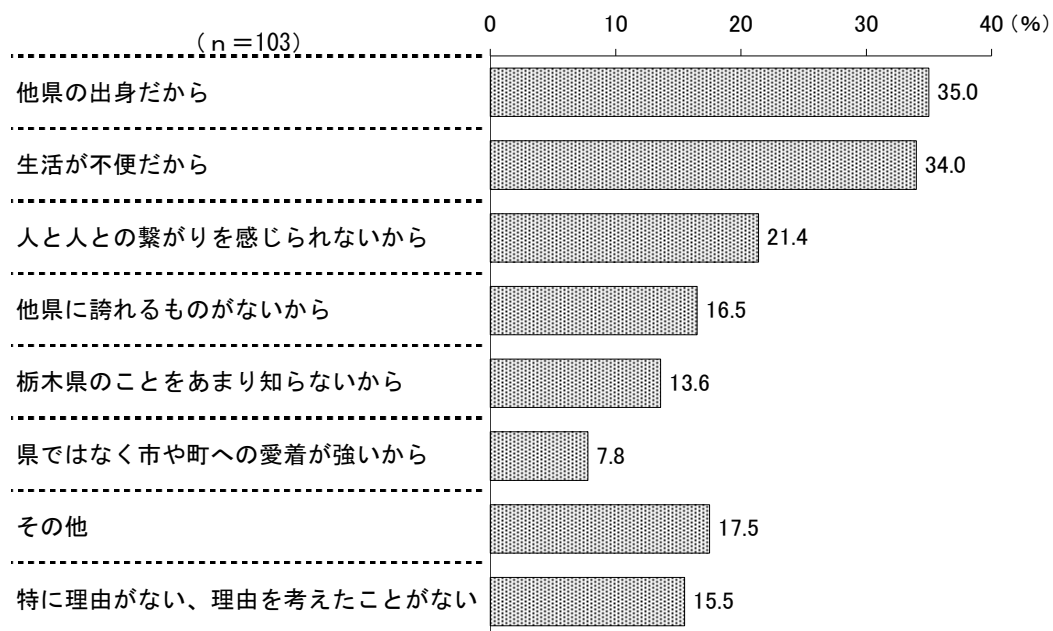
- ・全体で見ると、「住み慣れているから」(81.5%)が8割を超えて最も高く、次いで「環境や食事が自分に合っているから」(29.1%)、「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」(25.5%)、「人と人との繋がりを感じるから」(23.2%)、「県内の観光地を訪れたから」(17.0%)、「地元の祭りや行事に参加したから」(16.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「人と人との繋がりを感じるから」では〈女性〉(25.9%)が〈男性〉(20.3%)より5.6ポイント高くなっている。「県内の観光地を訪れたから」では〈女性〉(19.6%)が〈男性〉(14.8%)より4.8ポイント高くなっている。「環境や食事が自分に合っているから」では〈女性〉(31.6%)が〈男性〉(27.0%)より4.6ポイント高くなっている。「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈男性〉(27.9%)が〈女性〉(23.8%)より4.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「環境や食事が自分に合っているから」では〈女性60～64歳〉が39.7%、〈女性20歳代〉が38.8%と高くなっている。「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈男性70歳以上〉が36.5%、〈男性65～69歳〉が35.7%、〈女性70歳以上〉が35.5%と高くなっている。「県内の観光地を訪れたから」では〈女性70歳以上〉が34.6%、〈男性20歳代〉が34.5%と高くなっている。

(1-2) 栃木県に愛着を感じない理由

(問9で選択肢「あまり愛着がない」、「まったく愛着がない」を選んだ方のみお答えください)

問9-2 あなたが愛着を感じない理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=103]

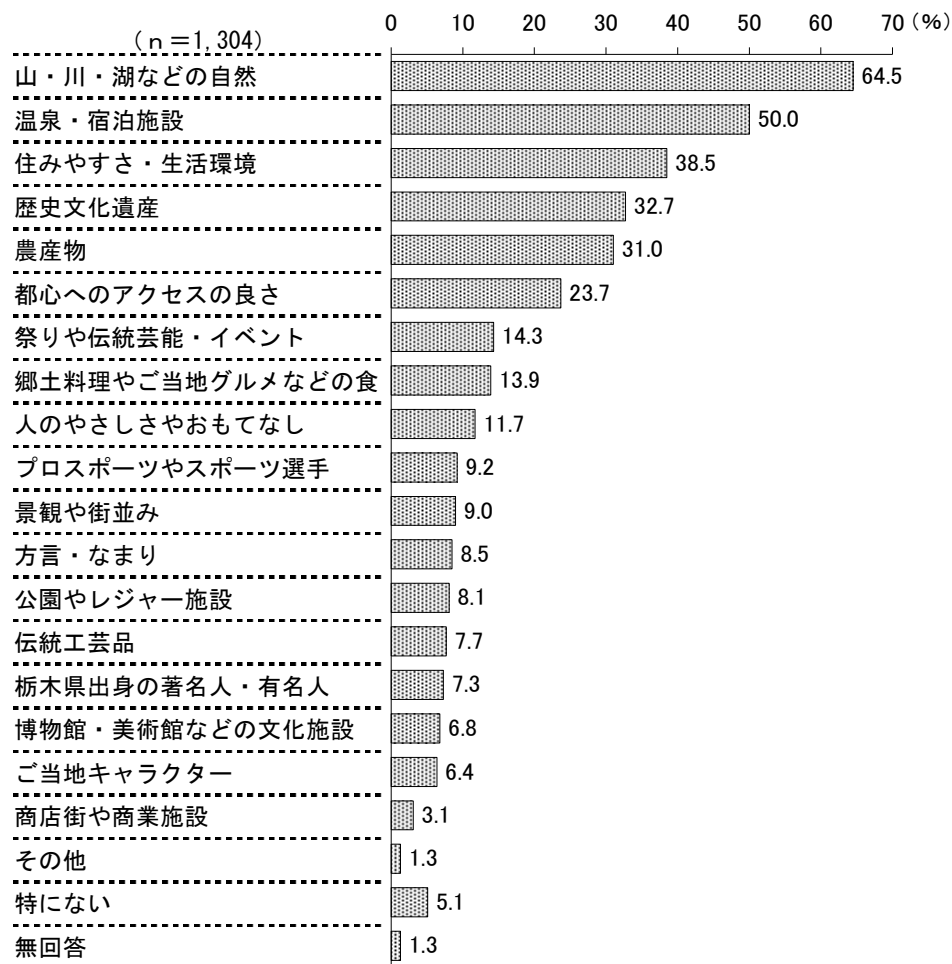


- 全体で見ると、「他県の出身だから」(35.0%)と「生活が不便だから」(34.0%)がともに3割半ばで高く、次いで「人と人との繋がりを感じられないから」(21.4%)、「他県に誇れるものがないから」(16.5%)、「栃木県のことをあまり知らないから」(13.6%)の順となっている。

(2) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの

問10 あなたが栃木県の魅力あるものとして自慢できるものは何ですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,304]



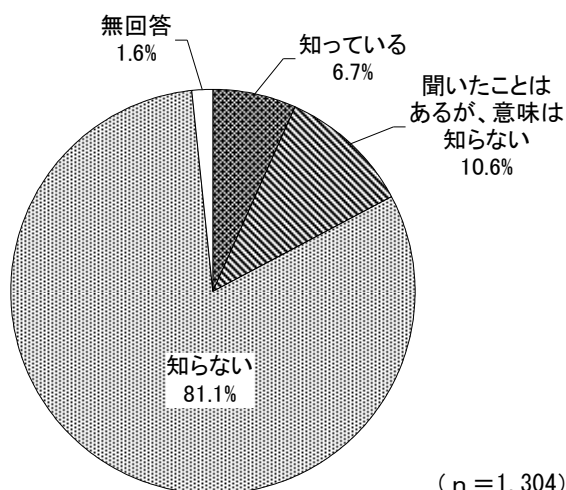
- ・全体で見ると、「山・川・湖などの自然」(64.5%)が6割半ばで最も高く、次いで「温泉・宿泊施設」(50.0%)、「住みやすさ・生活環境」(38.5%)、「歴史文化遺産」(32.7%)、「農産物」(31.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「山・川・湖などの自然」では〈男性〉(66.6%)が〈女性〉(62.9%)より3.7ポイント高くなっている。「歴史文化遺産」では〈男性〉(34.9%)が〈女性〉(31.2%)より3.7ポイント高くなっている。「農産物」では〈女性〉(32.4%)が〈男性〉(29.0%)より3.4ポイント高くなっている。「温泉・宿泊施設」では〈男性〉(51.5%)が〈女性〉(48.4%)より3.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「山・川・湖などの自然」では〈男性65～69歳〉が73.2%、〈男性70歳以上〉が72.7%、〈女性65～69歳〉が71.1%と高くなっている。「温泉・宿泊施設」では〈男性60～64歳〉が61.0%と高くなっている。「住みやすさ・生活環境」では〈女性20歳代〉が54.1%と高くなっている。「歴史文化遺産」では〈男性50歳代〉が43.6%と高くなっている。「都心へのアクセスの良さ」では〈女性60～64歳〉が40.5%と高くなっている。

(3) 「VERY GOOD LOCAL とちぎ」の認知度

問11 あなたは、「VERY GOOD LOCAL とちぎ(ベリー グッド ローカル とちぎ)」
(※) というキャッチフレーズを知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,304]

※ 「VERY GOOD LOCAL とちぎ」とは、充実した都市機能とともに、豊かな自然、優れた歴史・文化、人と人とのつながりなど、「ローカル(地方)」の良さを兼ね備えた栃木県の魅力・実力を表現した、とちぎブランド推進のキャッチフレーズです。



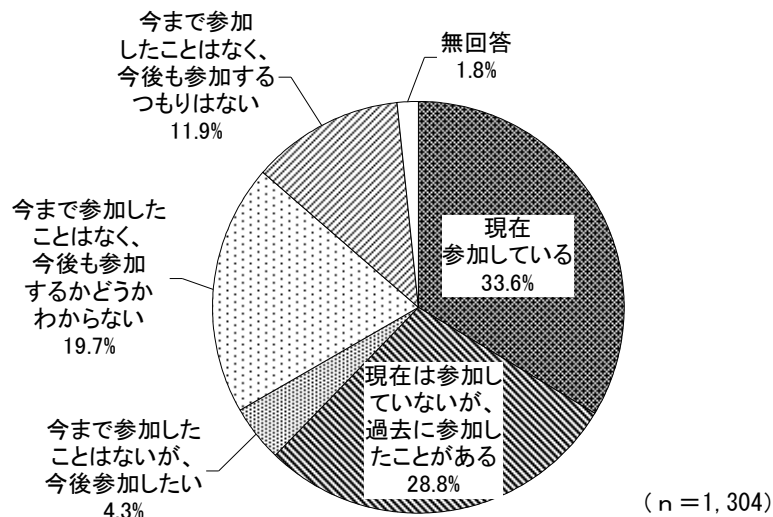
- ・全体で見ると、「知っている」(6.7%)と「聞いたことはあるが、意味は知らない」(10.6%)の2つを合わせた『名称は知っている』(17.3%)は2割近くとなっている。一方、「知らない」(81.1%)は8割を超えている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈女性70歳以上〉が12.8%、〈男性70歳以上〉が12.1%と高くなっている。『名称は知っている』では〈女性70歳以上〉が32.0%、〈男性70歳以上〉が26.6%と高くなっている。一方、「知らない」では〈男性20歳代〉が93.2%、〈女性30歳代〉が92.1%、〈女性50歳代〉が91.8%、〈男性40歳代〉が90.4%と高くなっている。

5 社会貢献活動について

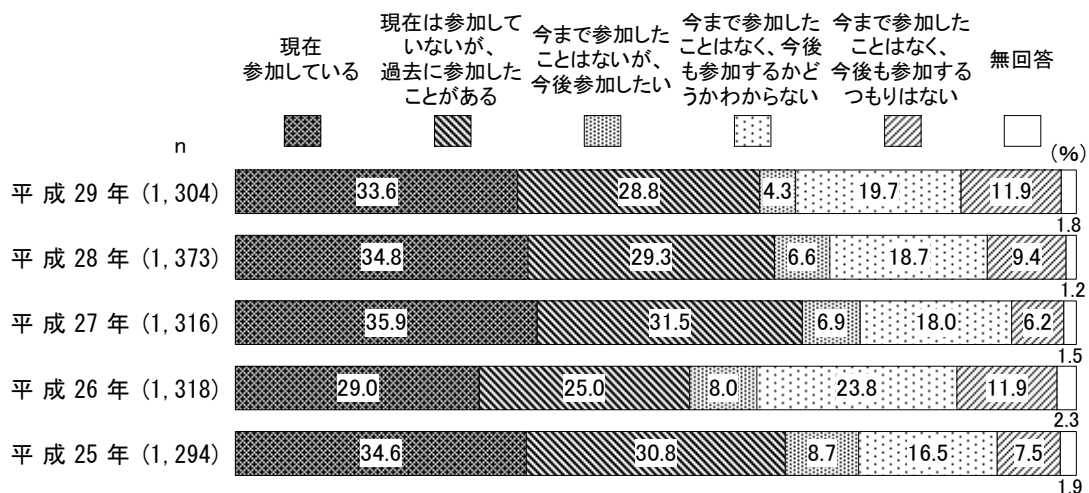
(1) 社会貢献活動の参加状況

問12 あなたは、社会貢献活動（※）に参加したことがありますか。また、参加したことがない方は、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。〔n=1,304〕

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。



- ・全体で見ると、「現在参加している」(33.6%)は3割を超えている。「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」(28.8%)は3割近くで、「今まで参加したことはないが、今後参加するかどうか分からない」(19.7%)は2割となっている。
- ・性別で見ると、「現在参加している」では〈男性〉(36.4%)が〈女性〉(31.2%)より5.2ポイント高くなっている。「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」では〈女性〉(32.5%)が〈男性〉(24.6%)より7.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「現在参加している」では〈女性60～64歳〉が46.4%、〈男性65～69歳〉が45.1%と高くなっている。「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」では〈女性65～69歳〉が40.8%と高くなっている。「今まで参加したことはないが、今後参加したい」では〈女性30歳代〉が32.9%、〈女性20歳代〉が31.1%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「今まで参加したことはないが、今後参加するつもりはない」が前回(平成28年)より2.5ポイント増加している。一方、「今まで参加したことはないが、今後参加したい」が前回(平成28年)より2.3ポイント減少している。

6 地域防災について

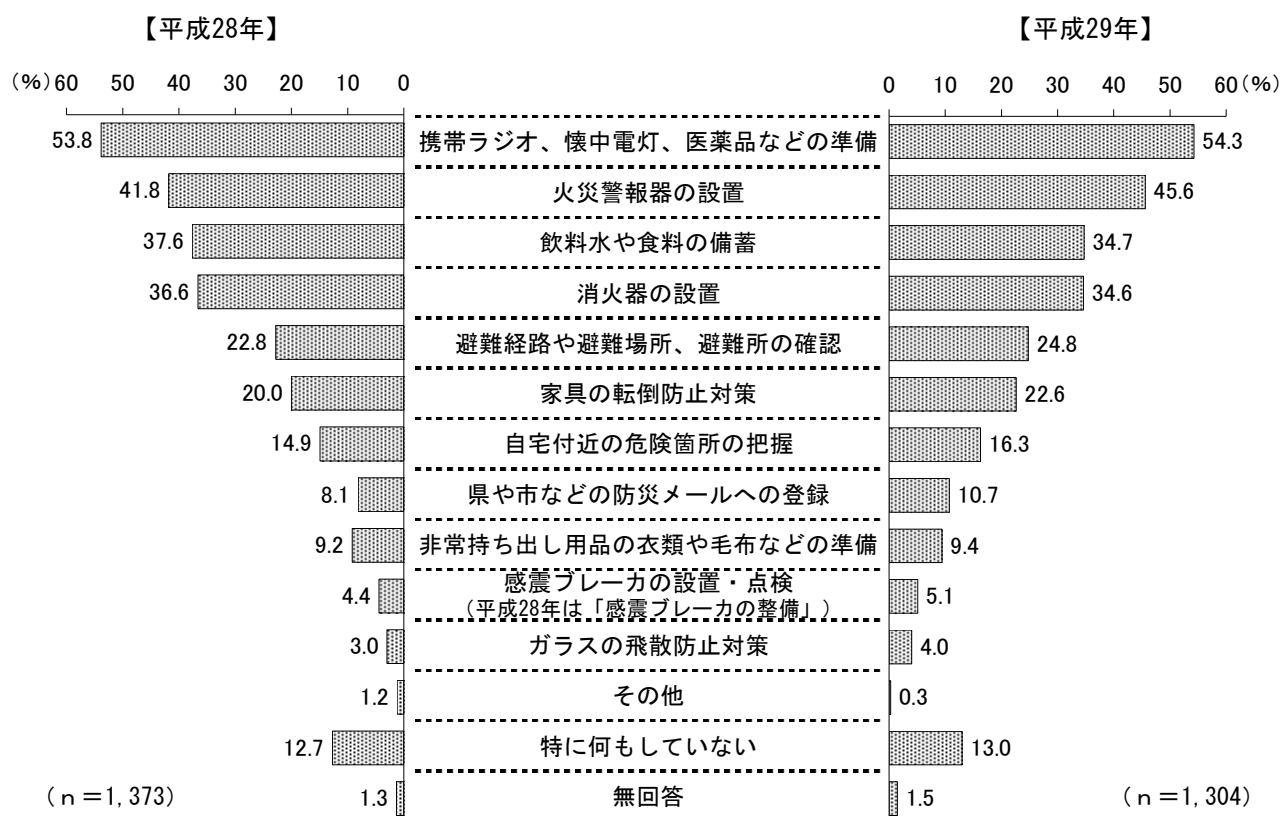
(1) 災害に対する備え

問13 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,304]

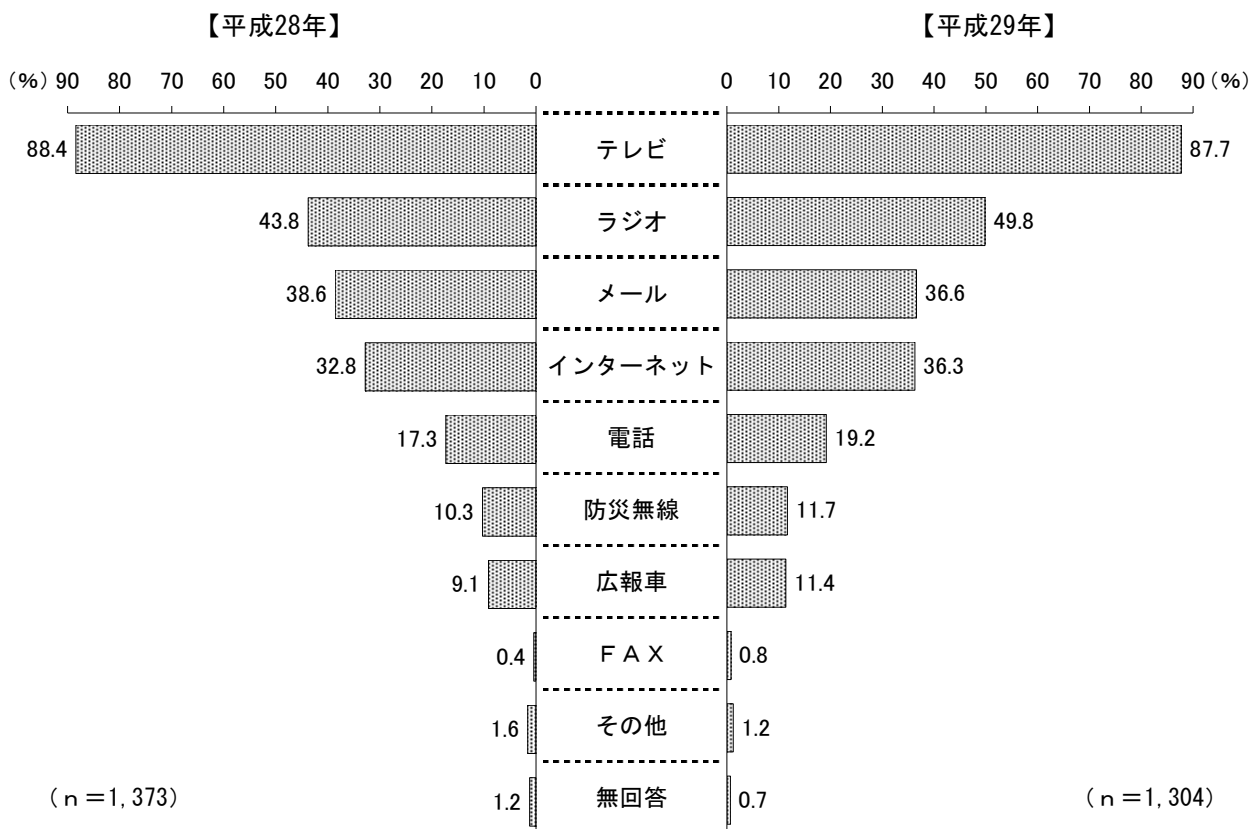
※ 感震ブレーカとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に、配線用ブレーカ又は漏電ブレーカなどを遮断する器具をいいます。



- ・全体で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(54.3%)が5割半ばで最も高く、次いで「火災警報器の設置」(45.6%)、「飲料水や食料の備蓄」(34.7%)、「消火器の設置」(34.6%)、「避難経路や避難場所、避難所の確認」(24.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「飲料水や食料の備蓄」では〈女性〉(38.8%)が〈男性〉(30.7%)より8.1ポイント高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性〉(28.4%)が〈男性〉(21.0%)より7.4ポイント高くなっている。「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性〉(57.2%)が〈男性〉(51.1%)より6.1ポイント高くなっている。「火災警報器の設置」では〈女性〉(48.3%)が〈男性〉(42.8%)より5.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性65～69歳〉が72.4%と高くなっている。「火災警報器の設置」では〈女性30歳代〉が55.3%と高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性20歳代〉が57.4%と高くなっている。「消火器の設置」では〈女性70歳以上〉が45.5%、〈女性65～69歳〉が44.7%、〈男性70歳以上〉が44.2%、〈男性60～64歳〉が44.1%と高くなっている。
- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「火災警報器の設置」が3.8ポイント増加している。

(2) 災害が発生したときなどの緊急時の情報入手手段

問14 あなたは、災害が発生した際などの緊急時にどのような手段で情報を得ていますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,304]

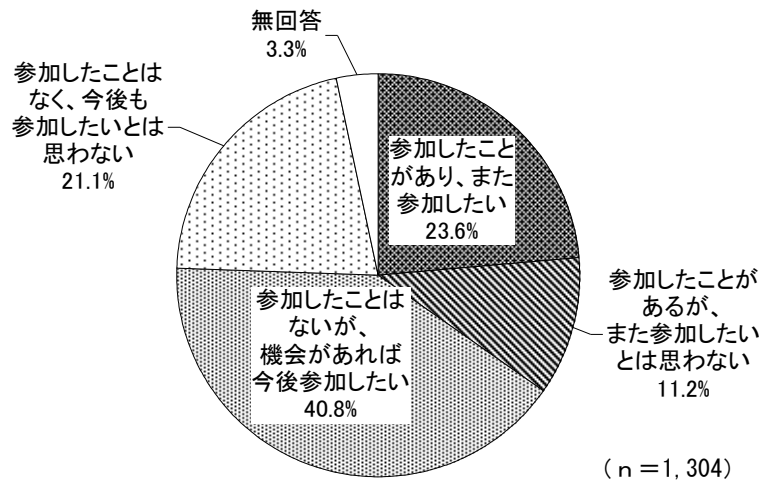


- ・全体で見ると、「テレビ」(87.7%)が9割近くで最も高く、次いで「ラジオ」(49.8%)、「メール」(36.6%)、「インターネット」(36.3%)、「電話」(19.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「ラジオ」では〈男性〉(54.8%)が〈女性〉(45.3%)より9.5ポイント高くなっている。「インターネット」では〈男性〉(39.3%)が〈女性〉(34.0%)より5.3ポイント高くなっている。「防災無線」では〈女性〉(14.0%)が〈男性〉(9.7%)より4.3ポイント高くなっている。「メール」では〈女性〉(38.3%)が〈男性〉(34.9%)より3.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「ラジオ」では〈男性60～64歳〉が67.8%と高くなっている。「メール」では〈女性40歳代〉が61.7%、〈女性50歳代〉が54.6%と高くなっている。「インターネット」では〈女性20歳代〉が78.7%、〈男性30歳代〉が73.6%と高くなっている。「電話」では〈女性65～69歳〉が30.3%、〈女性70歳以上〉が30.1%と高くなっている。「広報車」では〈男性70歳以上〉が28.5%と高くなっている。
- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「ラジオ」が6.0ポイント、「インターネット」が3.5ポイント、それぞれ増加している。

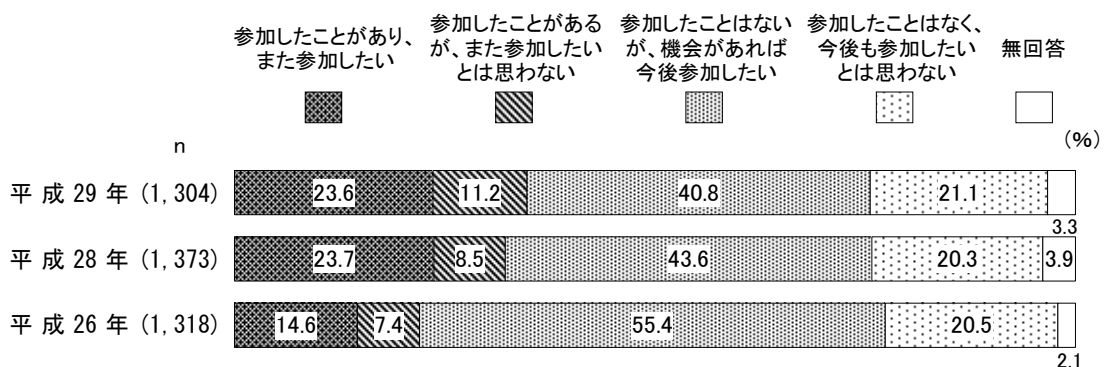
(3) 防災訓練の参加状況

問15 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 304]



- ・全体で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」(23.6%)は2割を超えている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(40.8%)はほぼ4割で、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(21.1%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉(44.3%)が〈男性〉(36.7%)より7.6ポイント高くなっている。「参加したことがあり、また参加したい」では〈男性〉(27.4%)が〈女性〉(20.4%)より7.0ポイント高くなっている。「参加したことがああるが、また参加したいとは思わない」では〈男性〉(13.9%)が〈女性〉(9.1%)より4.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈男性60～64歳〉が42.4%、〈男性50歳代〉が35.1%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性30歳代〉が56.6%と高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈女性20歳代〉が39.3%と高くなっている。



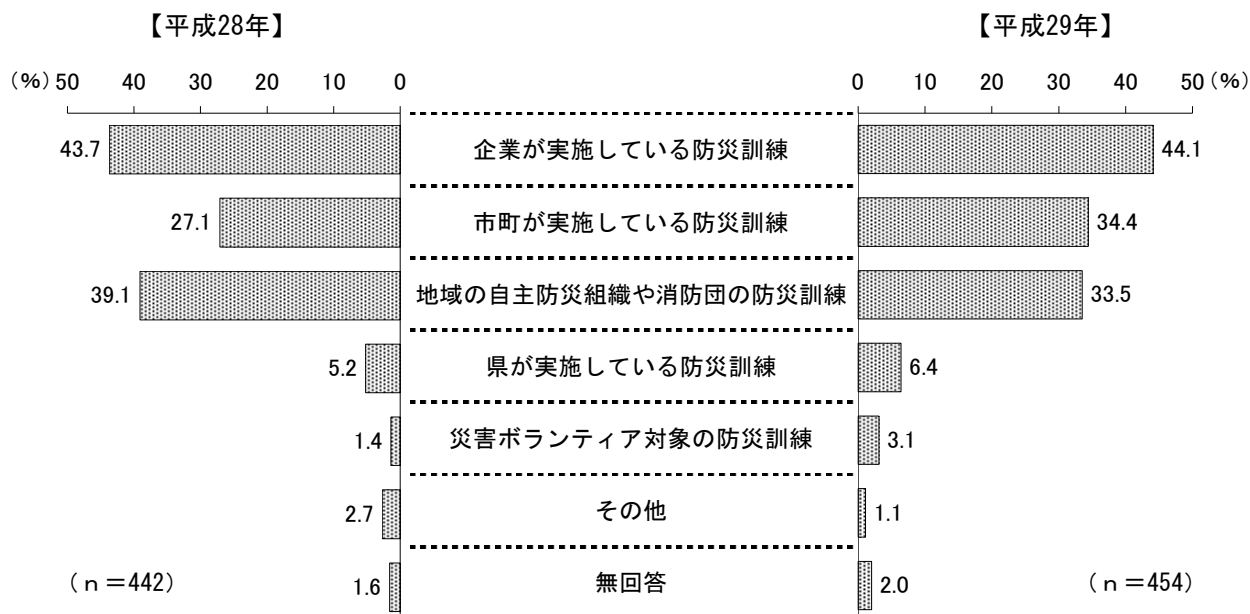
- ・過去の調査結果と比較すると、「参加したことがああるが、また参加したいとは思わない」が前回(平成28年)より2.7ポイント増加している。一方、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」が前回(平成28年)より2.8ポイント減少している。

(3-1) 参加したことがある防災訓練

(問15で選択肢「参加したことがあります、また参加したい」、「参加したことがあるが、また参加したいとは思わない」を選んだ方のみお答えください)

問15-1 あなたは、今までどのような訓練に参加したことがありますか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=454]

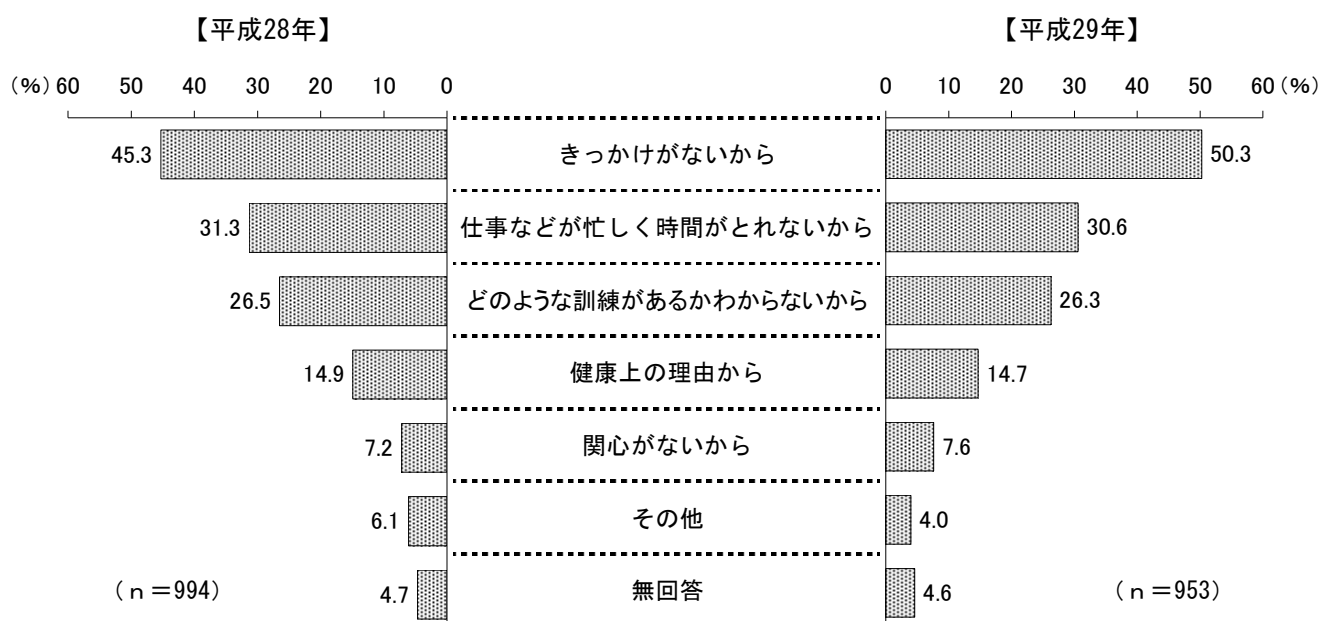


- ・全体で見ると、「企業が実施している防災訓練」(44.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「市町が実施している防災訓練」(34.4%)、「地域の自主防災組織や消防団の防災訓練」(33.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「企業が実施している防災訓練」では〈男性〉(47.6%)が〈女性〉(39.4%)より8.2ポイント高くなっている。「市町が実施している防災訓練」では〈男性〉(36.1%)が〈女性〉(32.3%)より3.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「企業が実施している防災訓練」では〈女性30歳代〉が80.0%、〈男性50歳代〉が75.0%と高くなっている。「市町が実施している防災訓練」では〈女性70歳以上〉が61.9%、〈男性70歳以上〉が53.7%と高くなっている。「地域の自主防災組織や消防団の防災訓練」では〈男性70歳以上〉が50.7%、〈女性65~69歳〉が50.0%と高くなっている。
- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「市町が実施している防災訓練」が7.3ポイント増加している。一方、「地域の自主防災組織や消防団の防災訓練」が5.6ポイント減少している。

(3-2) 防災訓練に参加したことがない理由・今後参加したいと思わない理由

(問15で選択肢「参加したことがあるが、また参加したいとは思わない」、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」を選んだ方のみお答えください)

問15-2 あなたが、訓練に参加したことがない又は今後参加したいと思わない理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=953]

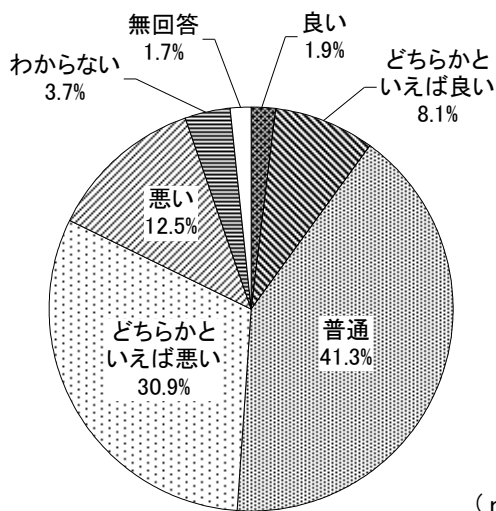


- ・全体で見ると、「きっかけがないから」(50.3%)が5割で最も高く、次いで「仕事などが忙しく時間がとれないから」(30.6%)、「どのような訓練があるかわからないから」(26.3%)、「健康上の理由から」(14.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「どのような訓練があるかわからないから」では〈女性〉(30.0%)が〈男性〉(22.1%)より7.9ポイント高くなっている。「きっかけがないから」では〈女性〉(53.7%)が〈男性〉(46.1%)より7.6ポイント高くなっている。「仕事などが忙しく時間がとれないから」では〈男性〉(33.9%)が〈女性〉(28.4%)より5.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「きっかけがないから」では〈女性30歳代〉が66.7%と高くなっている。「仕事などが忙しく時間がとれないから」では〈男性20歳代〉が50.0%、〈男性30歳代〉が49.1%と高くなっている。「どのような訓練があるかわからないから」では〈女性60~64歳〉が37.1%、〈女性65~69歳〉が36.4%と高くなっている。「健康上の理由から」では〈女性70歳以上〉が44.7%、〈男性70歳以上〉が37.3%と高くなっている。
- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「きっかけがないから」が5.0ポイント増加している。

7 とちぎの交通マナーについて

(1) 県内のドライバーの交通マナーの良さ

問16 あなたは、県内におけるドライバー（自動車運転者）の交通マナーについてどのように感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,304]



- ・全体で見ると、「良い」(1.9%)と「どちらかといえば良い」(8.1%)の2つを合わせた『良い』(10.0%)は1割となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(30.9%)と「悪い」(12.5%)の2つを合わせた『悪い』(43.4%)は4割を超えている。また、「普通」(41.3%)は4割を超えている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『良い』では〈女性70歳以上〉が16.1%、〈男性60～64歳〉が15.3%と高くなっている。一方、『悪い』では〈男性20歳代〉が63.6%、〈男性30歳代〉が59.7%、〈女性20歳代〉が59.0%と高くなっている。

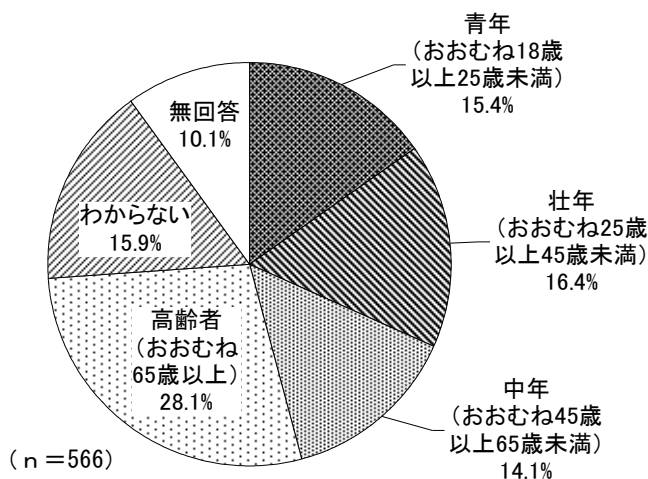
(1-1) 交通マナーが悪いと思うドライバー層

(問16で選択肢「どちらかといえば悪い」、「悪い」を選んだ方のみお答えください)

問16-1 あなたが最もマナーが悪いと思うドライバーの層はどれですか。

次の中から1つ選んでください。

[n=566]

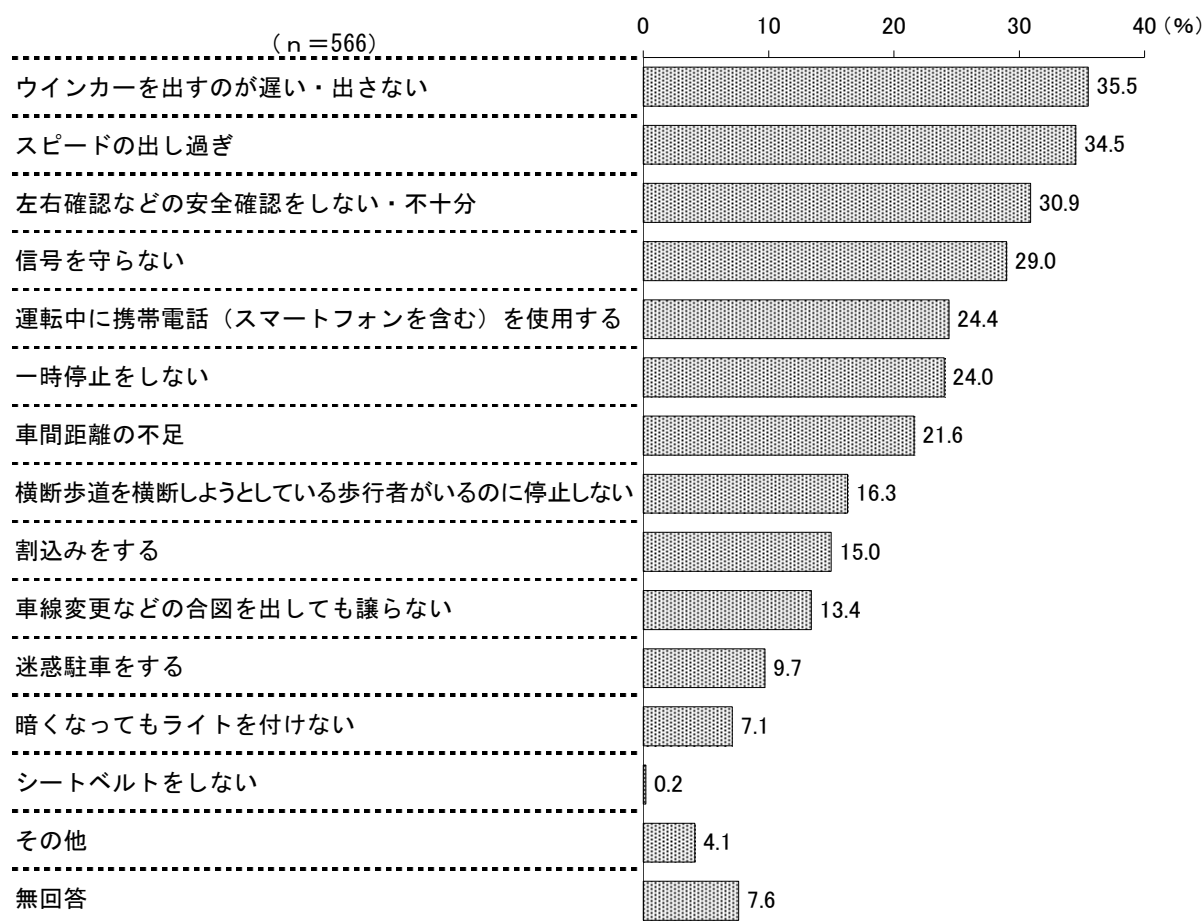


- ・全体で見ると、「高年齢者 (おおむね65歳以上)」(28.1%) が3割近くで最も高くなっている。「青年 (おおむね18歳以上25歳未満)」(15.4%)、「壮年 (おおむね25歳以上45歳未満)」(16.4%)、「中年 (おおむね45歳以上65歳未満)」(14.1%) はいずれも1割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「高年齢者 (おおむね65歳以上)」では〈女性20歳代〉が36.1%、〈男性50歳代〉が34.0%と高くなっている。「青年 (おおむね18歳以上25歳未満)」では〈男性60～64歳〉が32.0%と高くなっている。「壮年 (おおむね25歳以上45歳未満)」では〈女性65～69歳〉が38.1%と高くなっている。「中年 (おおむね45歳以上65歳未満)」では〈男性20歳代〉が28.6%と高くなっている。

(1-2) 危険を感じる・交通マナーが悪いと感じるドライバーの運転行為

(問16で選択肢「どちらかといえば悪い」、「悪い」を選んだ方のみお答えください)

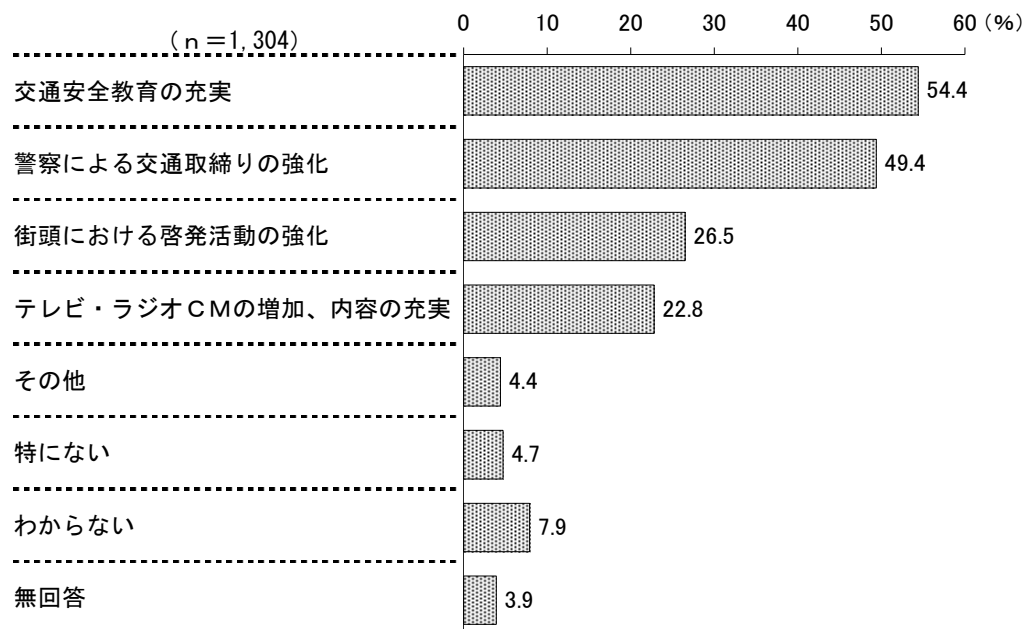
問16-2 あなたが、特に危険だ・マナーが悪いと感じるのはドライバーのどのような運転行為ですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=566]



- 全体で見ると、「ウインカーを出すのが遅い・出さない」(35.5%)と「スピードの出し過ぎ」(34.5%)がともに3割半ばで高く、次いで「左右確認などの安全確認をしない・不十分」(30.9%)、「信号を守らない」(29.0%)、「運転中に携帯電話（スマートフォンを含む）を使用する」(24.4%)、「一時停止をしない」(24.0%)の順となっている。
- 性別で見ると、「一時停止をしない」では〈男性〉(28.5%)が〈女性〉(19.5%)より9.0ポイント高くなっている。「スピードの出し過ぎ」では〈女性〉(38.4%)が〈男性〉(31.1%)より7.3ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「ウインカーを出すのが遅い・出さない」では〈男性65～69歳〉が51.9%と高くなっている。「スピードの出し過ぎ」では〈女性40歳代〉が47.6%と高くなっている。「左右確認などの安全確認をしない・不十分」では〈男性30歳代〉が44.2%と高くなっている。「信号を守らない」では〈女性50歳代〉が43.6%、〈男性50歳代〉が42.6%と高くなっている。「運転中に携帯電話（スマートフォンを含む）を使用する」では〈男性60～64歳〉が44.0%と高くなっている。

(2) ドライバーの交通マナー向上のための取組

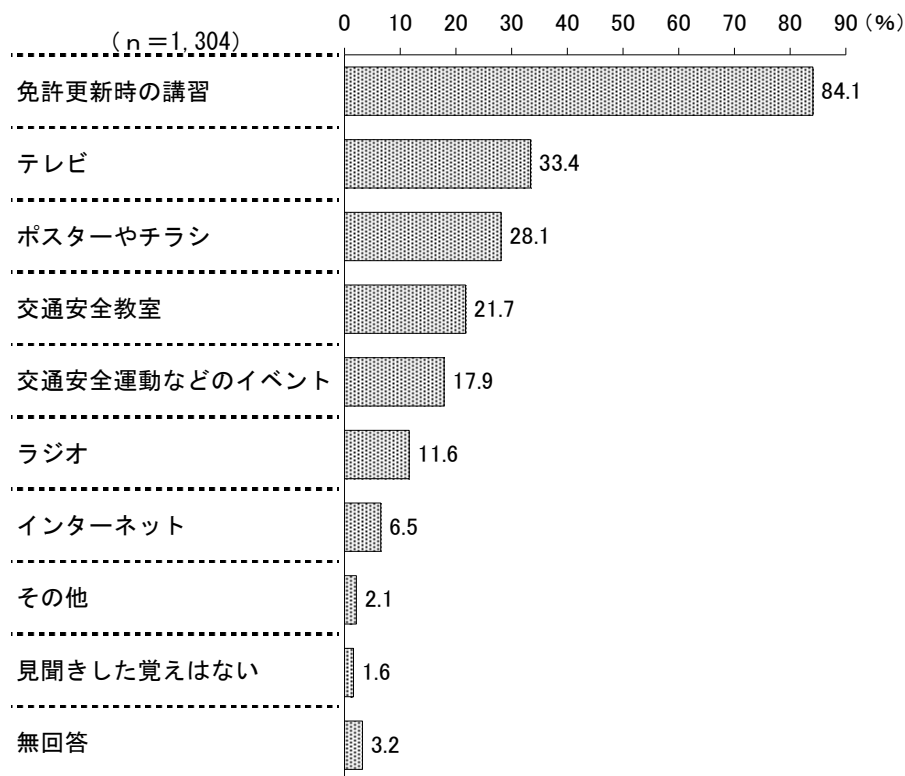
問17 あなたは、ドライバーの交通マナー向上のため、どのような取組が有効だと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n = 1,304]



- ・全体で見ると、「交通安全教育の充実」(54.4%)が5割半ばで最も高く、次いで「警察による交通取締りの強化」(49.4%)、「街頭における啓発活動の強化」(26.5%)、「テレビ・ラジオCMの増加、内容の充実」(22.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「街頭における啓発活動の強化」では〈男性〉(29.3%)が〈女性〉(24.1%)より5.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「交通安全教育の充実」では〈女性65～69歳〉が65.8%、〈男性70歳以上〉が65.5%、〈男性60～64歳〉が64.4%と高くなっている。「警察による交通取締りの強化」では〈女性20歳代〉が60.7%と高くなっている。「街頭における啓発活動の強化」では〈男性70歳以上〉が38.8%、〈男性60～64歳〉が37.3%と高くなっている。「テレビ・ラジオCMの増加、内容の充実」では〈男性65～69歳〉が31.7%、〈男性40歳代〉が30.1%と高くなっている。

(3) 交通マナーやルールについて見聞きした機会・媒体

問18 あなたは、交通マナーやルールについて、これまでどのような機会に、又はどのような媒体で見聞きしましたか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,304]

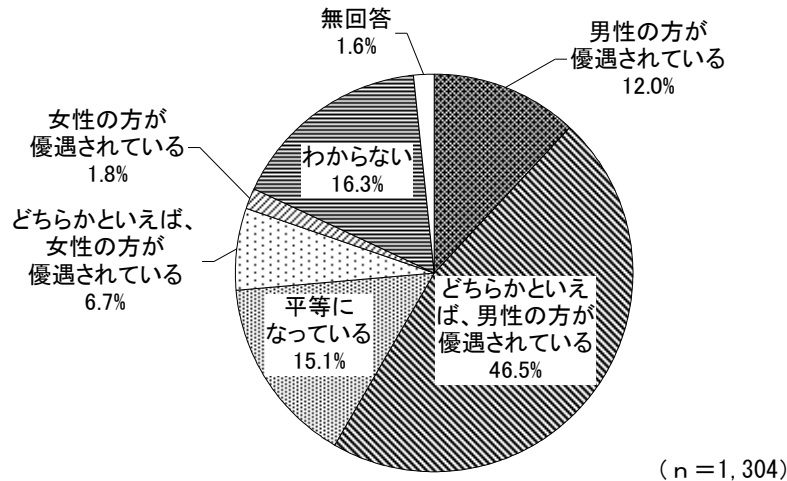


- ・全体で見ると、「免許更新時の講習」(84.1%)が8割半ばで最も高く、次いで「テレビ」(33.4%)、「ポスターやチラシ」(28.1%)、「交通安全教室」(21.7%)、「交通安全運動などのイベント」(17.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「免許更新時の講習」では〈男性〉(90.5%)が〈女性〉(78.6%)より11.9ポイント高くなっている。「テレビ」では〈女性〉(37.6%)が〈男性〉(28.9%)より8.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「テレビ」では〈女性70歳以上〉が41.7%、〈女性20歳代〉が41.0%と高くなっている。「ポスターやチラシ」では〈女性20歳代〉が39.3%と高くなっている。「交通安全教室」では〈女性20歳代〉が42.6%と高くなっている。

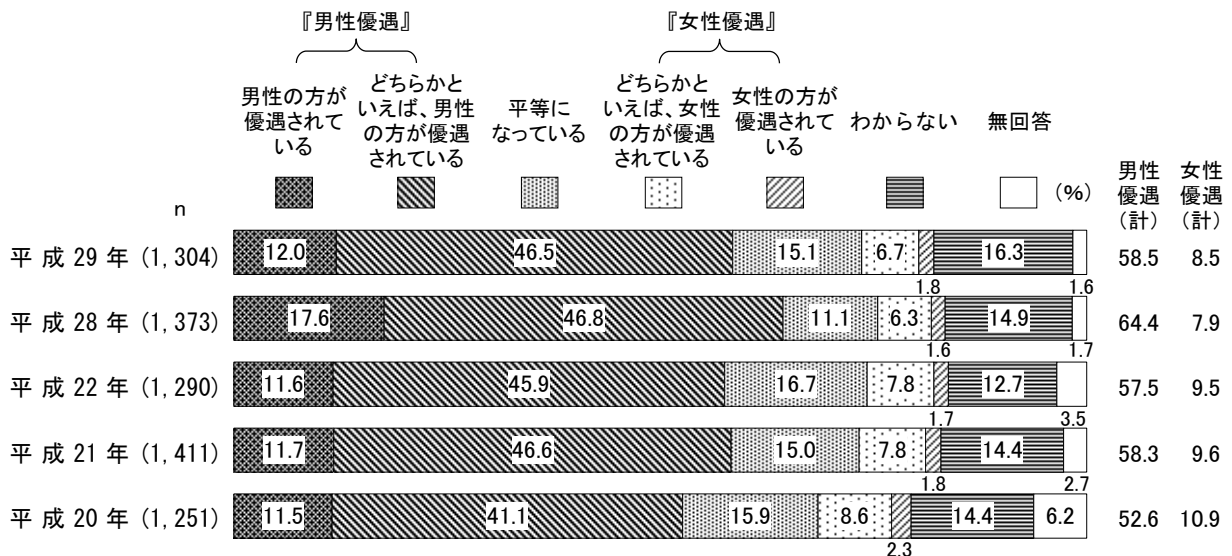
8 男女平等意識について

(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感

問19 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,304]



- 全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(12.0%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(46.5%)の2つを合わせた『男性優遇』(58.5%)は6割近くとなっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(6.7%)と「女性の方が優遇されている」(1.8%)の2つを合わせた『女性優遇』(8.5%)は1割近くとなっている。また、「平等になっている」(15.1%)は1割半ばとなっている。
- 性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(61.9%)が〈男性〉(54.9%)より7.0ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(13.1%)が〈女性〉(4.3%)より8.8ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性40歳代〉が73.9%、〈女性30歳代〉が73.7%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性20歳代〉が29.6%と高くなっている。

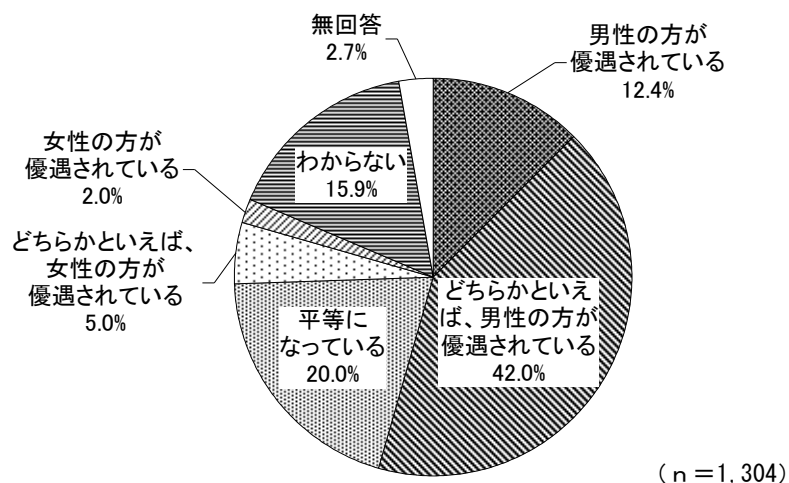


- 過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が前回(平成28年)より5.9ポイント減少している。一方、「平等になっている」が前回(平成28年)より4.0ポイント増加している。

(2) 働く場での男女の地位の平等感

問20 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。(現在働いていない方も、イメージでお答えください。)

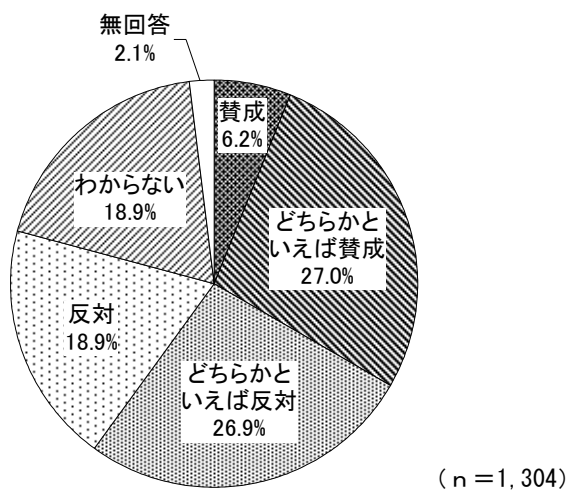
[n = 1,304]



- ・全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(12.4%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(42.0%)の2つを合わせた『男性優遇』(54.4%)は5割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(5.0%)と「女性の方が優遇されている」(2.0%)の2つを合わせた『女性優遇』(7.0%)は1割近くとなっている。また、「平等になっている」(20.0%)は2割となっている。
- ・性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(57.4%)が〈男性〉(51.0%)より6.4ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(8.7%)が〈女性〉(5.6%)より3.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性60～64歳〉が72.7%、〈女性30歳代〉が64.5%、〈女性40歳代〉が62.6%、〈男性65～69歳〉が62.2%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性20歳代〉が18.1%と高くなっている。

(3) 固定的な性別役割分担意識

問21 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように
思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n = 1, 304]

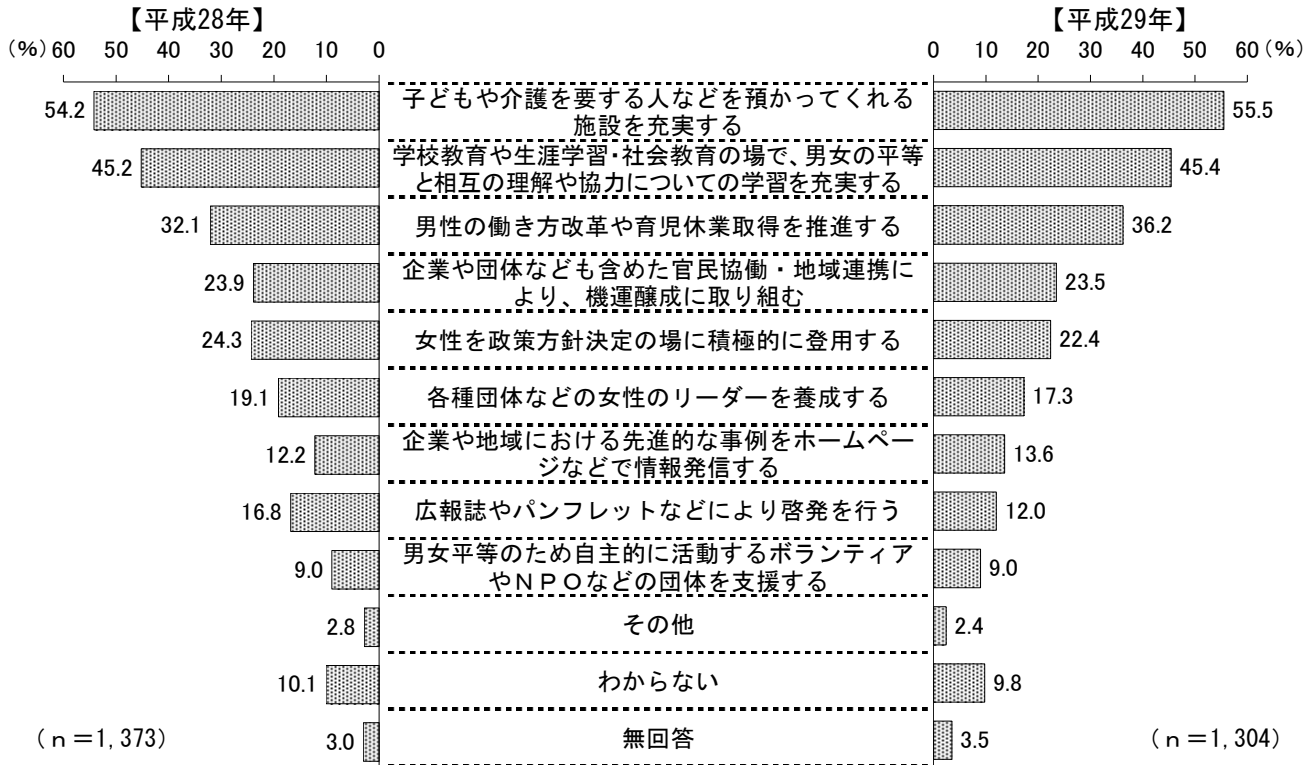


- ・全体で見ると、「賛成」(6.2%)と「どちらかといえば賛成」(27.0%)の2つを合わせた『賛成』(33.2%)は3割を超えている。一方、「どちらかといえば反対」(26.9%)と「反対」(18.9%)の2つを合わせた『反対』(45.8%)は4割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『賛成』では〈男性〉(37.8%)が〈女性〉(28.6%)より9.2ポイント高くなっている。一方、『反対』では〈女性〉(49.7%)が〈男性〉(41.8%)より7.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『賛成』では〈男性70歳以上〉が47.9%、〈男性20歳代〉が47.7%と高くなっている。一方、『反対』では〈女性50歳代〉が58.8%、〈女性40歳代〉が56.5%、〈女性30歳代〉が55.3%と高くなっている。

(4) 男女平等な社会を推進していくための県の取組

問22 あなたは、今後さらに男女平等な社会を推進していくために、県はどのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 304]

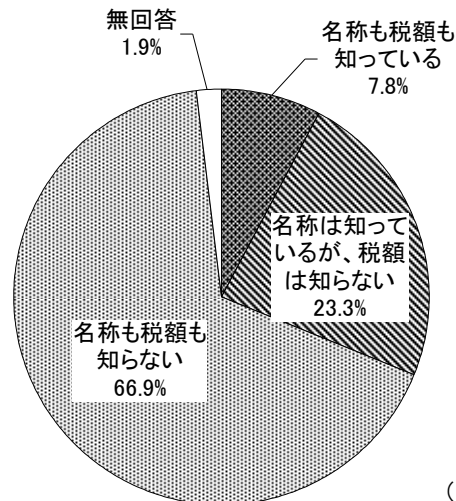


- ・全体でみると、「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実する」(55.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「学校教育や生涯学習・社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(45.4%)、「男性の働き方改革や育児休業取得を推進する」(36.2%)、「企業や団体なども含めた官民協働・地域連携により、機運醸成に取り組む」(23.5%)、「女性を政策方針決定の場に積極的に登用する」(22.4%)の順となっている。
- ・性別でみると、「子どもや介護を要する人などを預かってくれる施設を充実する」では〈女性〉(58.8%)が〈男性〉(51.8%)より7.0ポイント高くなっている。「企業や団体なども含めた官民協働・地域連携により、機運醸成に取り組む」では〈男性〉(26.2%)が〈女性〉(21.1%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「学校教育や生涯学習・社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」では〈女性60～64歳〉が63.1%と高くなっている。「男性の働き方改革や育児休業取得を推進する」では〈男性20歳代〉が61.4%、〈女性20歳代〉が60.7%と高くなっている。
- ・前回(平成28年)の調査と比較すると、「男性の働き方改革や育児休業取得を推進する」が4.1ポイント増加している。一方、「広報誌やパンフレットなどにより啓発を行う」が4.8ポイント減少している。

9 とちぎの元気な森づくり県民税について

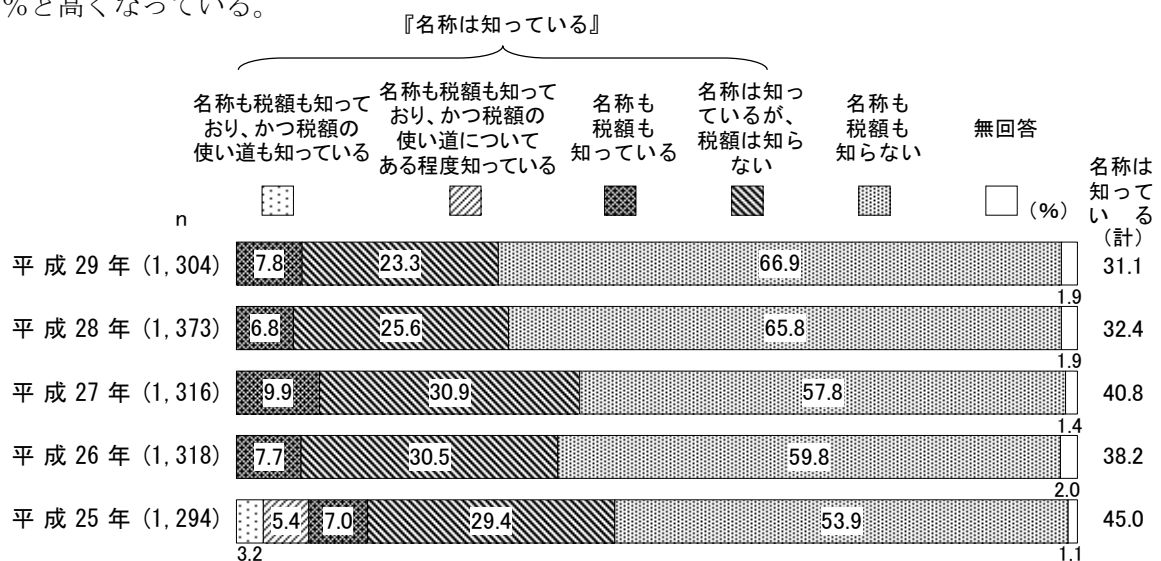
(1) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の認知度

問23 あなたは、森林を守り育て、元気な姿で次の世代に引き継いでいくため、平成20年4月から導入している「とちぎの元気な森づくり県民税」、いわゆる森林環境税を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,304]



(n=1,304)

- ・全体で見ると、「名称も税額も知っている」(7.8%)と「名称は知っているが、税額は知らない」(23.3%)の2つを合わせた『名称は知っている』(31.1%)は3割を超えている。一方、「名称も税額も知らない」(66.9%)は7割近くとなっている。
- ・性別で見ると、「名称も税額も知っている」では〈男性〉(10.7%)が〈女性〉(5.5%)より5.2ポイント高くなっている。『名称は知っている』では〈男性〉(35.9%)が〈女性〉(26.6%)より9.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「名称も税額も知っている」では〈男性50歳代〉が17.0%、〈男性70歳以上〉が16.4%と高くなっている。『名称は知っている』では〈男性65～69歳〉が53.7%、〈男性70歳以上〉が47.3%と高くなっている。



※平成25年調査では、「名称も税額も知っている」の選択肢は「名称と税額のみ知っている」としていた。また、「名称も税額も知っているが、かつ税額の使い道も知っている」と「名称も税額も知っているが、かつ税額の使い道についてある程度知っている」の選択肢を加えて質問していた。

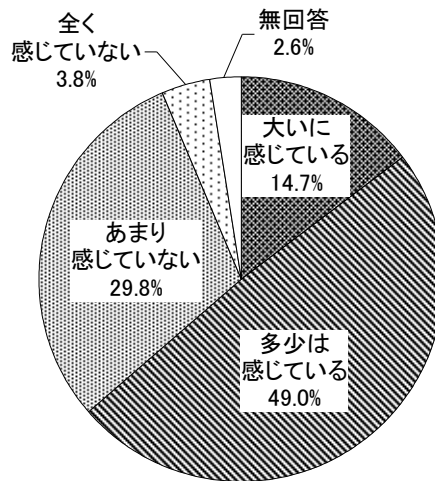
- ・過去の調査結果と比較すると、前回(平成28年)と大きな傾向の違いはみられない。

10 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性に対する不安

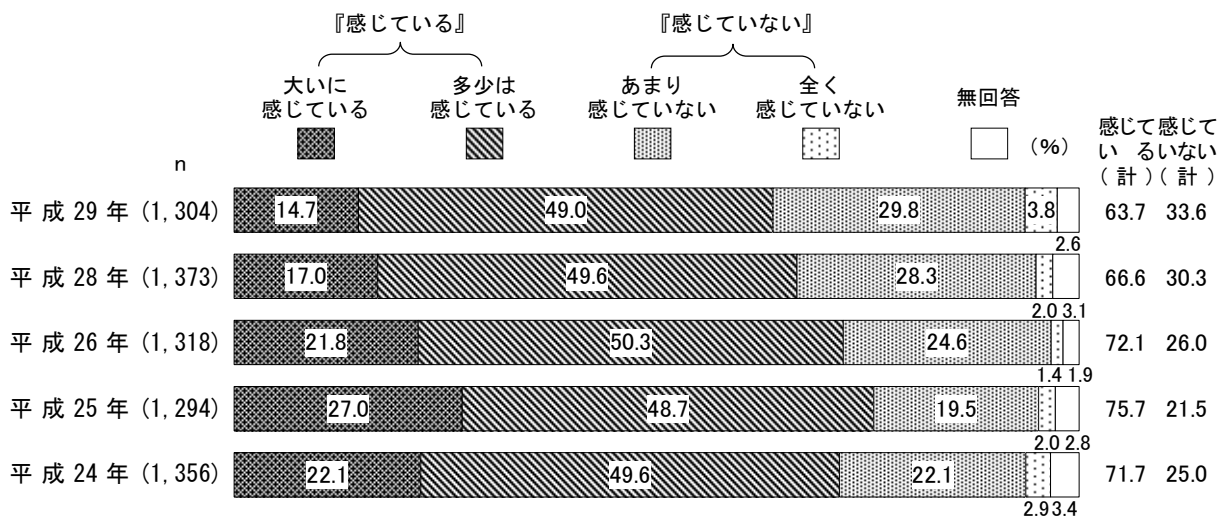
問24 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,304]



(n=1,304)

- ・全体で見ると、「大いに感じている」(14.7%)と「多少は感じている」(49.0%)の2つを合わせた『感じている』(63.7%)は6割を超えている。一方、「あまり感じていない」(29.8%)と「全く感じていない」(3.8%)の2つを合わせた『感じていない』(33.6%)は3割を超えている。
- ・性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(69.7%)が〈男性〉(56.9%)より12.8ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(40.6%)が〈女性〉(27.5%)より13.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『感じている』では〈女性60~64歳〉が83.3%、〈女性70歳以上〉が74.4%、〈女性40歳代〉が73.0%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性20歳代〉が63.6%、〈女性20歳代〉が50.8%、〈男性60~64歳〉が49.2%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、『感じている』が前回(平成28年)より2.9ポイント減少している。一方、『感じていない』が前回(平成28年)より3.3ポイント増加している。

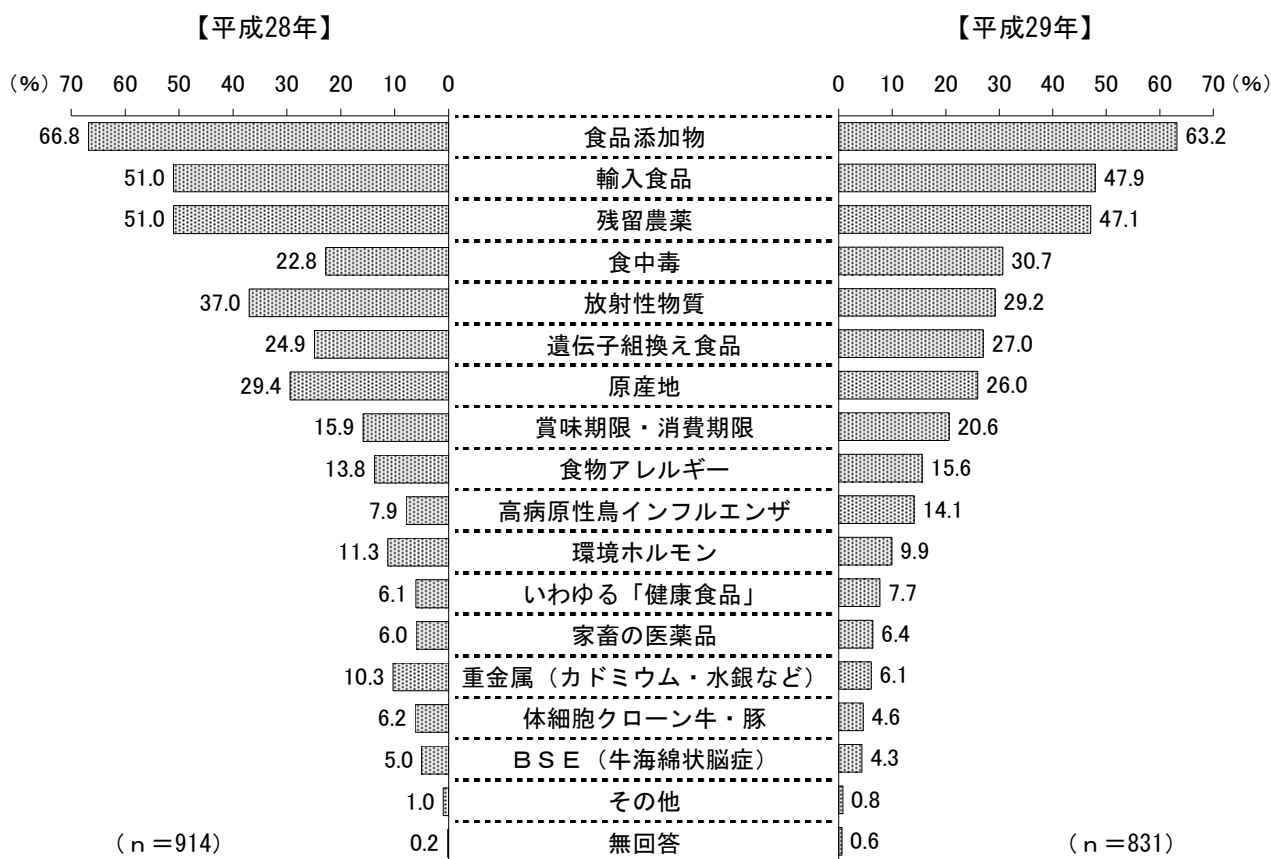
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問24で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問24-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。

次の中から4つまで選んでください。

[n=831]



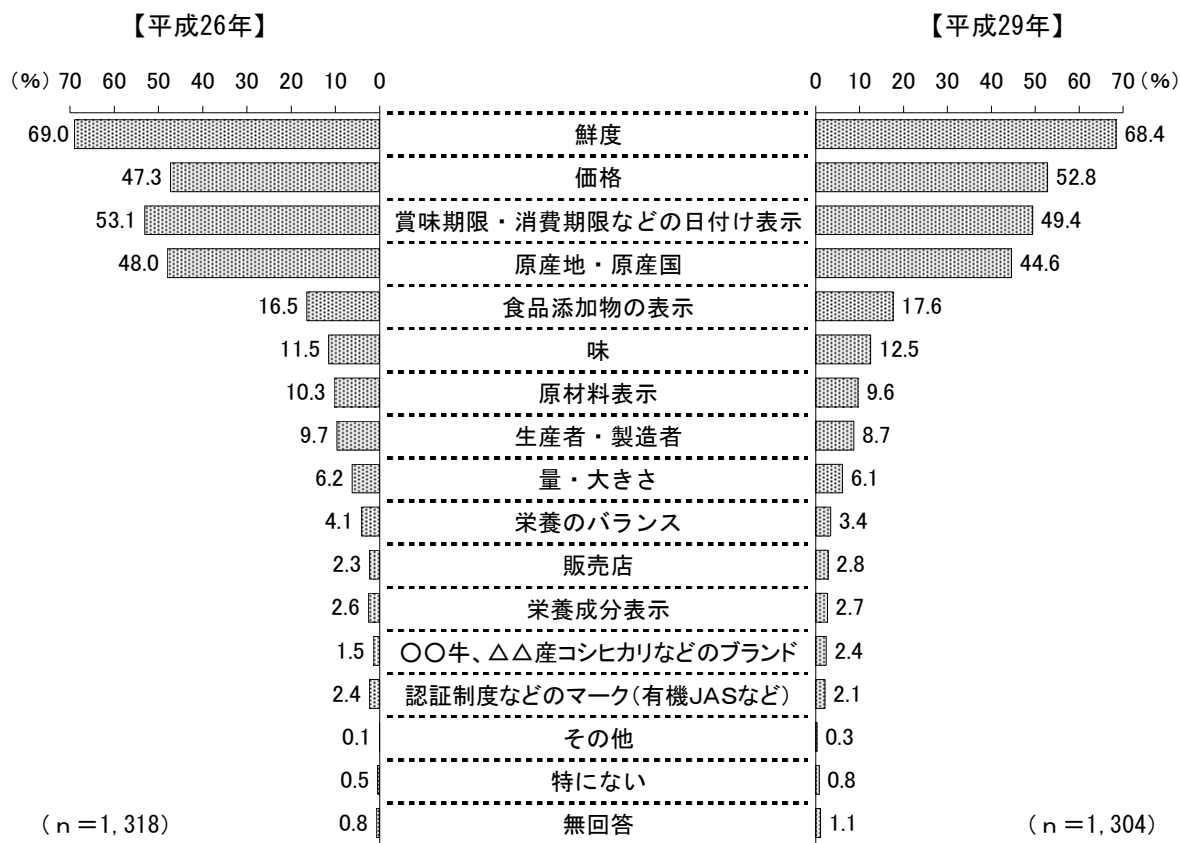
- ・全体で見ると、「食品添加物」(63.2%)が6割を超えて最も高く、次いで「輸入食品」(47.9%)、「残留農薬」(47.1%)、「食中毒」(30.7%)、「放射性物質」(29.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(68.0%)が〈男性〉(57.1%)より10.9ポイント高くなっている。「放射性物質」では〈女性〉(32.2%)が〈男性〉(25.6%)より6.6ポイント高くなっている。「食中毒」では〈男性〉(33.1%)が〈女性〉(28.1%)より5.0ポイント高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈男性〉(23.1%)が〈女性〉(18.3%)より4.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉が81.1%と高くなっている。「輸入食品」では〈男性40歳代〉が60.8%と高くなっている。「残留農薬」では〈女性50歳代〉が58.8%、〈男性60~64歳〉が58.6%、〈女性65~69歳〉が58.5%と高くなっている。「食中毒」では〈女性20歳代〉が48.3%と高くなっている。「放射性物質」では〈男性50歳代〉が40.4%と高くなっている。「原産地」では〈女性20歳代〉が41.4%、〈男性40歳代〉が41.2%と高くなっている。
- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「食中毒」は7.9ポイント、「高病原性鳥インフルエンザ」は6.2ポイント、「賞味期限・消費期限」は4.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「放射性物質」は7.8ポイント、「重金属(カドミウム・水銀など)」は4.2ポイント、それぞれ減少している。

(2) 食品を購入するときに気を付けること

問25 あなたが食品を購入するときに気を付けることは何ですか。

次の中から3つまで選んでください。

[n = 1,304]

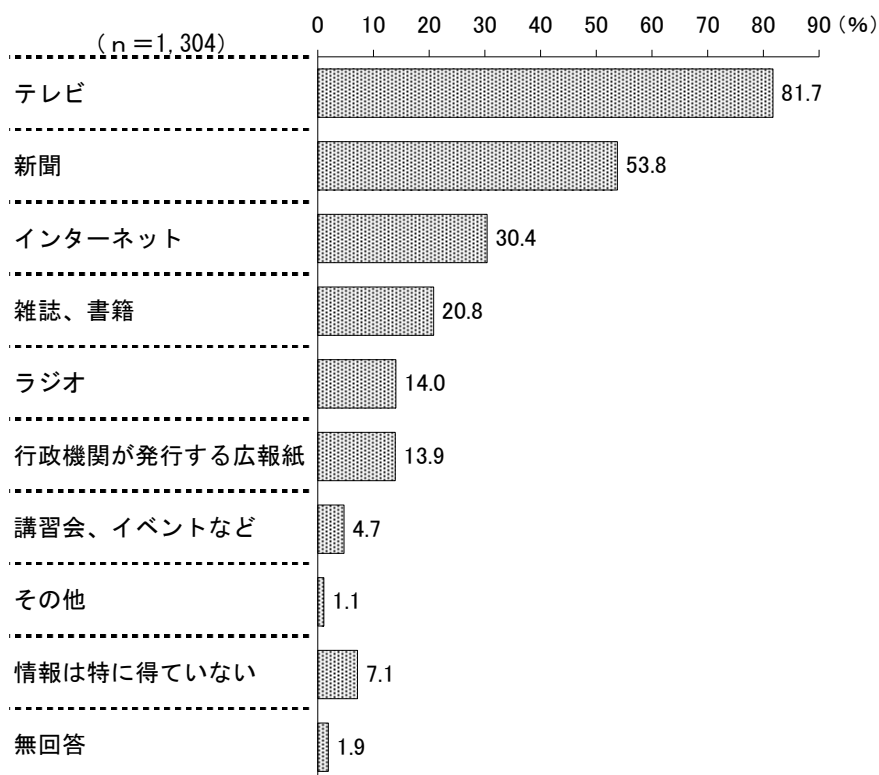


- ・全体で見ると、「鮮度」(68.4%)が7割近くで最も高く、次いで「価格」(52.8%)、「賞味期限・消費期限などの日付け表示」(49.4%)、「原産地・原産国」(44.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「原産地・原産国」では〈女性〉(49.5%)が〈男性〉(40.2%)より9.3ポイント高くなっている。「食品添加物の表示」では〈女性〉(21.0%)が〈男性〉(13.9%)より7.1ポイント高くなっている。「鮮度」では〈女性〉(71.3%)が〈男性〉(64.4%)より6.9ポイント高くなっている。「賞味期限・消費期限などの日付け表示」では〈男性〉(51.6%)が〈女性〉(47.0%)より4.6ポイント高くなっている。「価格」では〈男性〉(54.9%)が〈女性〉(50.8%)より4.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「鮮度」では〈女性50歳代〉が79.4%と高くなっている。「価格」では〈女性20歳代〉が73.8%と高くなっている。「賞味期限・消費期限などの日付け表示」では〈男性50歳代〉が58.5%、〈女性70歳以上〉が57.1%と高くなっている。「食品添加物の表示」では〈女性65~69歳〉が32.9%と高くなっている。
- ・平成26年の調査結果と比較すると、「価格」が5.5ポイント増加している。一方、「賞味期限・消費期限などの日付け表示」が3.7ポイント、「原産地・原産国」が3.4ポイント、それぞれ減少している。

(3) 食の安全に関する情報の取得方法

問26 あなたは、食の安全に関する情報をどのような方法で得ていますか。
次の中から3つまで選んでください。

[n=1,304]



- ・全体で見ると、「テレビ」(81.7%)が8割を超えて最も高く、次いで「新聞」(53.8%)、「インターネット」(30.4%)、「雑誌、書籍」(20.8%)、「ラジオ」(14.0%)、「行政機関が発行する広報紙」(13.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「雑誌、書籍」では〈女性〉(23.8%)が〈男性〉(17.5%)より6.3ポイント高くなっている。「テレビ」では〈女性〉(84.2%)が〈男性〉(78.9%)より5.3ポイント高くなっている。「ラジオ」では〈男性〉(16.4%)が〈女性〉(11.4%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「テレビ」では〈女性60～64歳〉が91.7%、〈男性60～64歳〉が89.8%、〈女性65～69歳〉が89.5%と高くなっている。「新聞」では〈女性70歳以上〉が78.8%と高くなっている。「インターネット」では男女ともに低い年代ほど割合が高くなっている。「行政機関が発行する広報紙」では〈男性70歳以上〉が29.7%、〈女性70歳以上〉が26.3%と高くなっている。

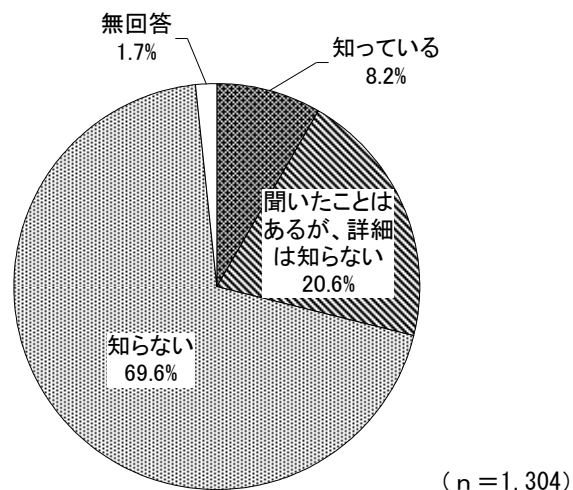
(4)「HACCP (ハサップ)」の認知度

問27 あなたは、HACCP (ハサップ) (※) を知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

[n=1,304]

※ HACCP (ハサップ) とは、食品の安全性を確保するための衛生管理の手法で、国際標準となっています。



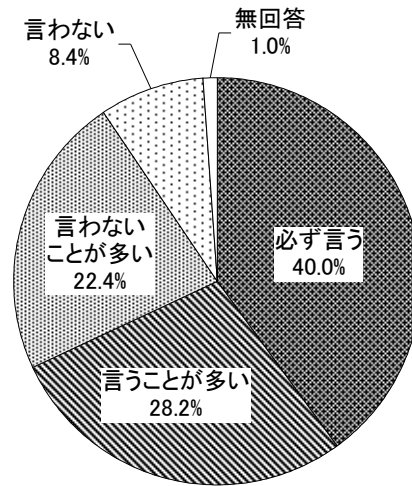
- ・全体で見ると、「知っている」(8.2%)と「聞いたことはあるが、詳細は知らない」(20.6%)の2つを合わせた『名称は知っている』(28.8%)は3割近くとなっている。一方、「知らない」(69.6%)は7割となっている。
- ・性別で見ると、『名称は知っている』では〈女性〉(30.5%)が〈男性〉(27.6%)より2.9ポイント高くなっている。一方、「知らない」では〈男性〉(71.0%)が〈女性〉(67.6%)より3.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈女性20歳代〉が18.0%、〈男性40歳代〉が16.9%と高くなっている。『名称は知っている』では〈女性20歳代〉が42.6%、〈女性40歳代〉が40.9%と高くなっている。一方、「知らない」では〈女性30歳代〉が78.9%、〈女性60～64歳〉が78.6%、〈男性20歳代〉が77.3%と高くなっている。

11 食に関する意識と実践について

(1) 食事の際「いただきます」を言っているか

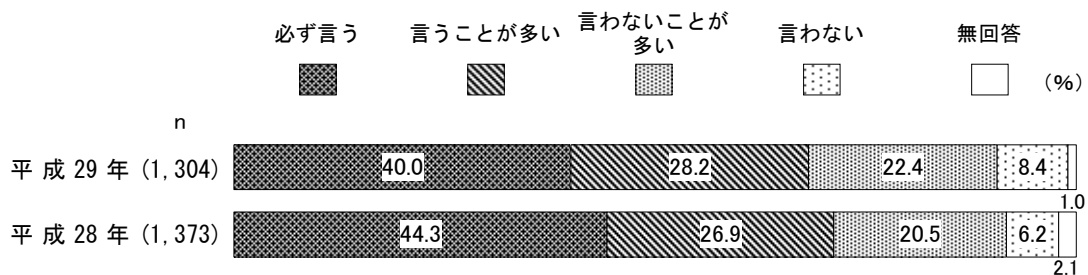
問28 あなたは、食事の際「いただきます」を言いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 304]



(n = 1, 304)

- ・全体で見ると、「必ず言う」(40.0%)は4割となっている。「言うことが多い」(28.2%)は3割近くで、「言わないことが多い」(22.4%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、「必ず言う」では〈女性〉(46.2%)が〈男性〉(33.6%)より12.6ポイント高くなっている。「言うことが多い」では〈女性〉(31.2%)が〈男性〉(24.8%)より6.4ポイント高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性〉(28.5%)が〈女性〉(16.6%)より11.9ポイント高くなっている。「言わない」では〈男性〉(12.3%)が〈女性〉(4.9%)より7.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「必ず言う」では〈女性40歳代〉が54.8%、〈男性30歳代〉が52.8%、〈女性20歳代〉が52.5%と高くなっている。「言わないことが多い」では〈男性65～69歳〉が40.2%、〈男性70歳以上〉が34.5%と高くなっている。

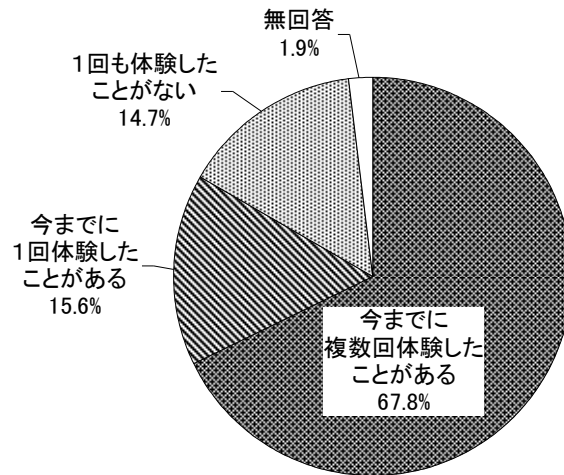


- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「必ず言う」が4.3ポイント減少している。

(2) 農業体験をした経験

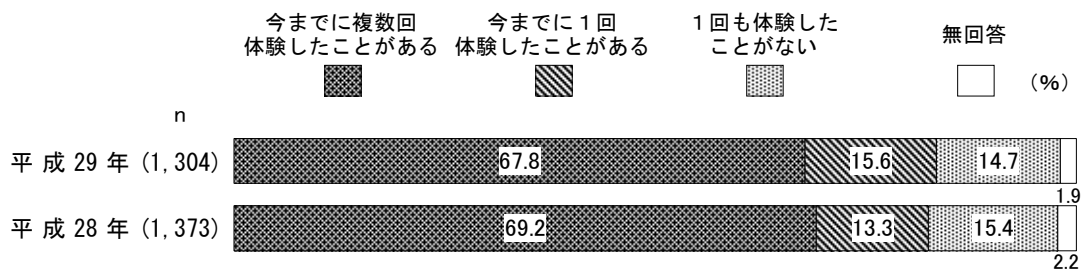
問29 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなどの農業体験をしたことがありますか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1,304]



(n = 1,304)

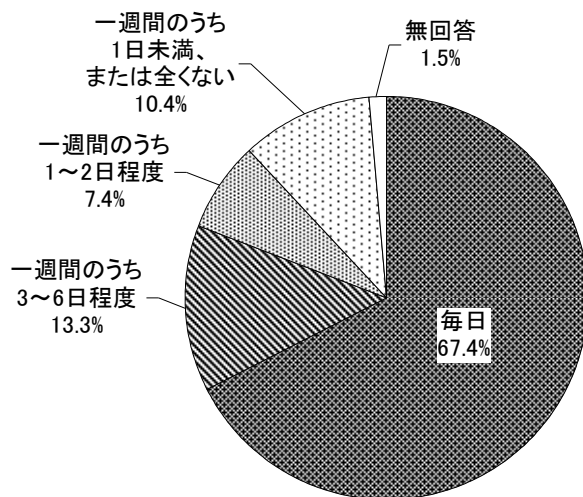
- ・全体で見ると、「今までに複数回体験したことがある」(67.8%)は7割近くで最も高くなっている。「今までに1回体験したことがある」(15.6%)と「1回も体験したことがない」(14.7%)はともに1割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性〉(71.5%)が〈男性〉(63.8%)より7.7ポイント高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性〉(18.9%)が〈女性〉(11.0%)より7.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性30歳代〉が81.6%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性40歳代〉が27.7%と高くなっている。



- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

(3) 他の人と一緒に食事をする頻度

問30 あなたが、1日のうち1回以上、一人で食べるのではなく、家族や友人、職場の人や地域の人と一緒に食事をする「共食（きょうしょく）」日はどのくらいありますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,304]



(n=1,304)

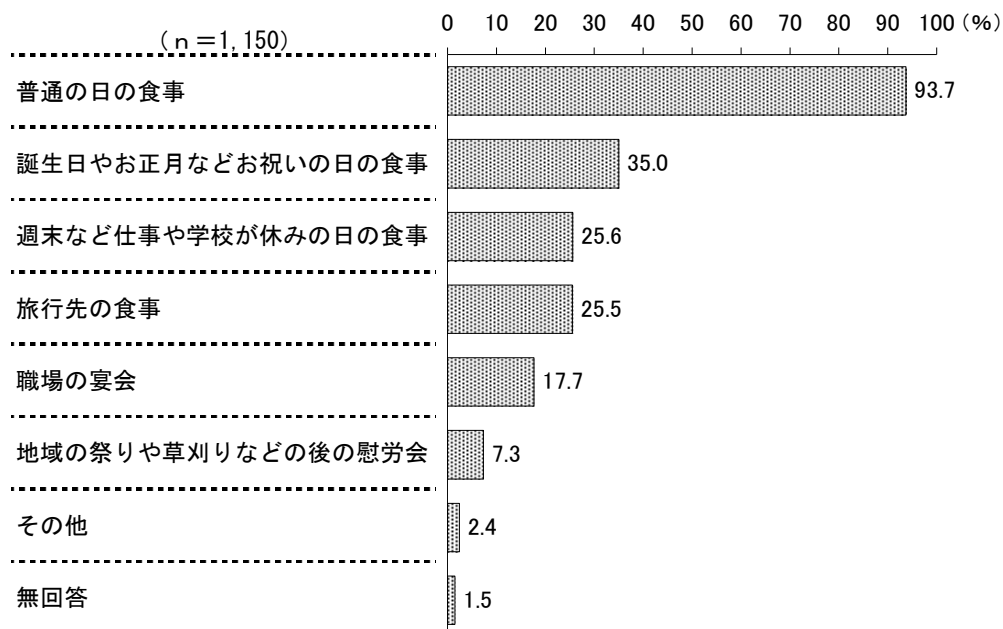
- ・全体でみると、「毎日」(67.4%)が7割近くで最も高くなっている。「一週間のうち3～6日程度」(13.3%)は1割を超えており、「一週間のうち1～2日程度」(7.4%)は1割近く、「一週間のうち1日未満、または全くない」(10.4%)は1割となっている。
- ・性別でみると、「毎日」では〈女性〉(73.0%)が〈男性〉(62.0%)より11.0ポイント高くなっている。「一週間のうち3～6日程度」では〈男性〉(15.9%)が〈女性〉(10.7%)より5.2ポイント高くなっている。「一週間のうち1日未満、または全くない」では〈男性〉(12.6%)が〈女性〉(7.9%)より4.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「毎日」では〈女性30歳代〉が84.2%、〈女性40歳代〉が83.5%と高くなっている。「一週間のうち3～6日程度」では〈男性40歳代〉が28.9%と高くなっている。「一週間のうち1日未満、または全くない」では〈男性65～69歳〉が18.3%、〈男性70歳以上〉が17.6%、〈女性70歳以上〉が16.7%と高くなっている。

(3-1) 他の人と一緒に食事をするとき

(問30で選択肢「毎日」、「一週間のうち3～6日程度」、「一週間のうち1～2日程度」を選んだ方のみお答えください)

問30-1 あなたが共食（きょうしょく）をするのはどのようなときですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,150]

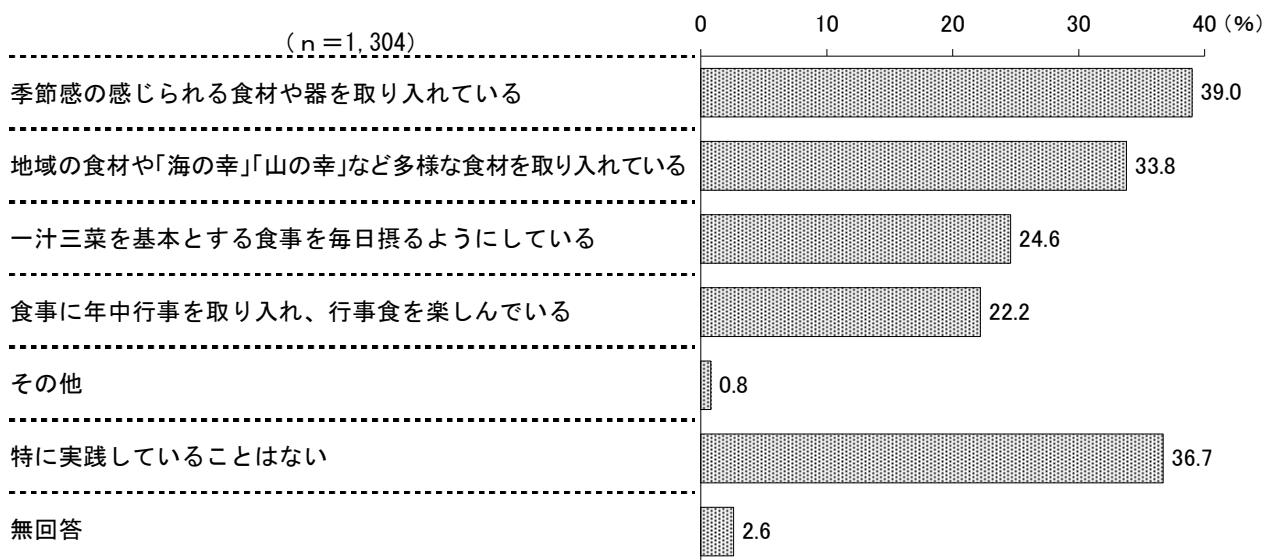


- ・全体で見ると、「普通の日」(93.7%)が9割を超えて最も高く、次いで「誕生日やお正月などお祝いの日」(35.0%)、「週末など仕事や学校が休みの日」(25.6%)、「旅行先の食事」(25.5%)、「職場の宴会」(17.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「誕生日やお正月などお祝いの日」では〈女性〉(40.2%)が〈男性〉(29.0%)より11.2ポイント高くなっている。「旅行先の食事」では〈女性〉(29.5%)が〈男性〉(20.7%)より8.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「誕生日やお正月などお祝いの日」では〈女性20歳代〉が55.2%と高くなっている。「週末など仕事や学校が休みの日」では〈女性20歳代〉が56.9%と高くなっている。「旅行先の食事」では〈女性20歳代〉が44.8%と高くなっている。「職場の宴会」では〈女性20歳代〉が36.2%、〈男性30歳代〉が34.4%と高くなっている。

(4) 和食の継承について実践していること

問31 平成25年12月に和食がユネスコ無形文化遺産に登録されました。あなたが、和食の継承について実践していることはありますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,304]



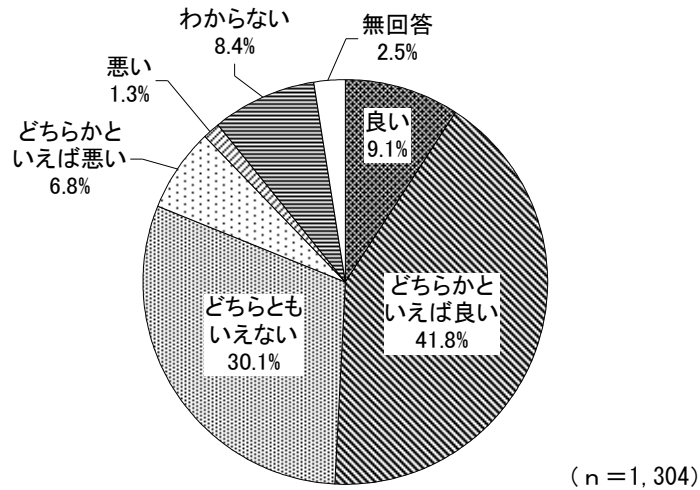
- ・全体で見ると、「季節感の感じられる食材や器を取り入れている」(39.0%)がほぼ4割で最も高く、次いで「地域の食材や『海の幸』『山の幸』など多様な食材を取り入れている」(33.8%)、「一汁三菜を基本とする食事を毎日摂るようにしている」(24.6%)、「食事に年中行事を取り入れ、行事食を楽しんでいる」(22.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「季節感の感じられる食材や器を取り入れている」では〈女性〉(47.3%)が〈男性〉(30.2%)より17.1ポイント高くなっている。「食事に年中行事を取り入れ、行事食を楽しんでいる」では〈女性〉(29.0%)が〈男性〉(15.2%)より13.8ポイント高くなっている。「特に実践していることはない」では〈男性〉(43.4%)が〈女性〉(30.5%)より12.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「季節感の感じられる食材や器を取り入れている」では〈女性65～69歳〉が61.8%、〈女性60～64歳〉が60.7%と高くなっている。「地域の食材や『海の幸』『山の幸』など多様な食材を取り入れている」では〈女性65～69歳〉が55.3%と高くなっている。「一汁三菜を基本とする食事を毎日摂るようにしている」では〈女性70歳以上〉が41.0%、〈女性65～69歳〉が38.2%と高くなっている。

12 犯罪と治安対策について

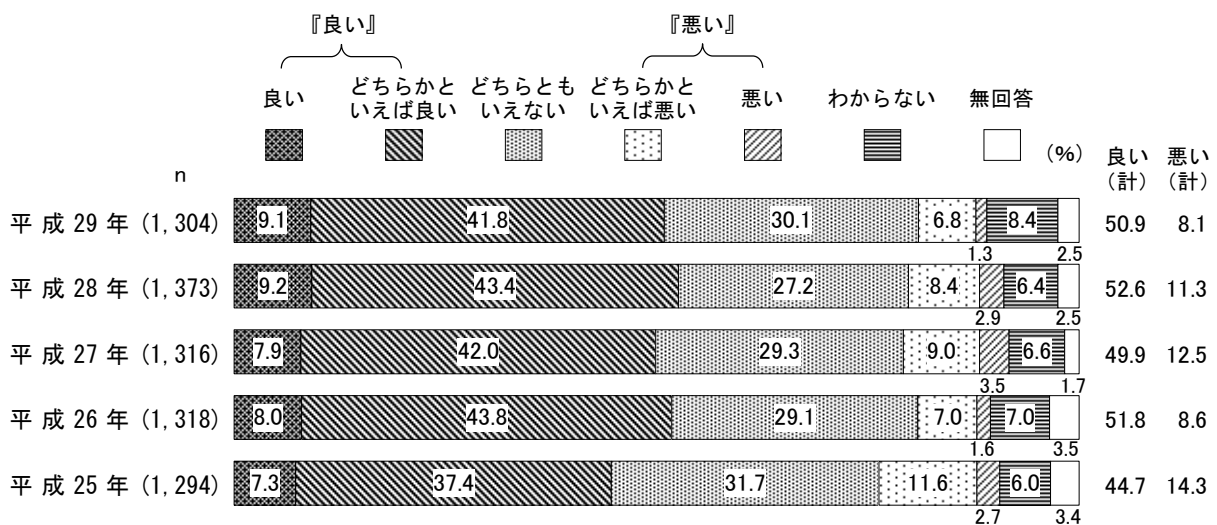
(1) 県内の治安状況

問32 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,304]



- ・全体で見ると、「良い」(9.1%)と「どちらかといえば良い」(41.8%)の2つを合わせた『良い』(50.9%)はほぼ5割となっている。一方、「どちらかといえば悪い」(6.8%)と「悪い」(1.3%)の2つを合わせた『悪い』(8.1%)は1割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(30.1%)は3割となっている。
- ・性別で見ると、『良い』では〈男性〉(55.9%)が〈女性〉(46.2%)より9.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『良い』では〈男性60～64歳〉が76.3%、〈男性65～69歳〉が62.2%と高くなっている。一方、『悪い』では〈男性20歳代〉が22.7%、〈男性30歳代〉が16.7%と高くなっている。

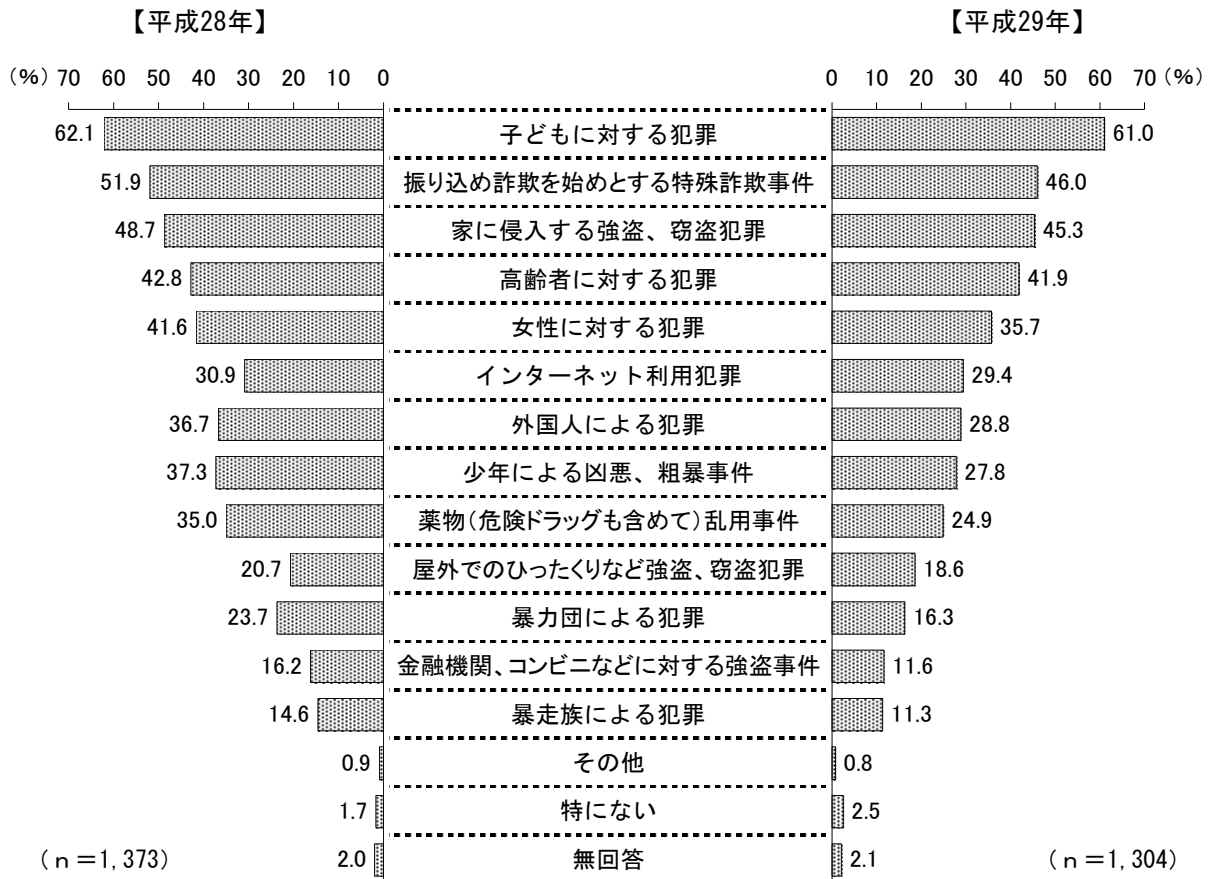


- ・過去の調査結果と比較すると、『悪い』が前回(平成28年)より3.2ポイント減少している。

(2) 不安を感じる犯罪

問33 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,304]



- ・全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(61.0%)が6割を超えて最も高く、次いで「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(46.0%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(45.3%)、「高齢者に対する犯罪」(41.9%)、「女性に対する犯罪」(35.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(43.1%)が〈男性〉(27.7%)より15.4ポイント高くなっている。「子どもに対する犯罪」では〈女性〉(67.8%)が〈男性〉(53.9%)より13.9ポイント高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性〉(47.0%)が〈男性〉(35.7%)より11.3ポイント高くなっている。「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉(50.7%)が〈男性〉(39.5%)より11.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が86.8%、〈女性40歳代〉が86.1%と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈女性70歳以上〉が62.2%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が67.3%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が60.7%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈女性20歳代〉が52.5%と高くなっている。
- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「薬物(危険ドラッグも含めて)乱用事件」が10.1ポイント、「少年による凶悪、粗暴事件」が9.5ポイント、「外国人による犯罪」が7.9ポイント、「暴力団による犯罪」が7.4ポイント、「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」が5.9ポイント、「女性に対する犯罪」が5.9ポイント、それぞれ減少している。

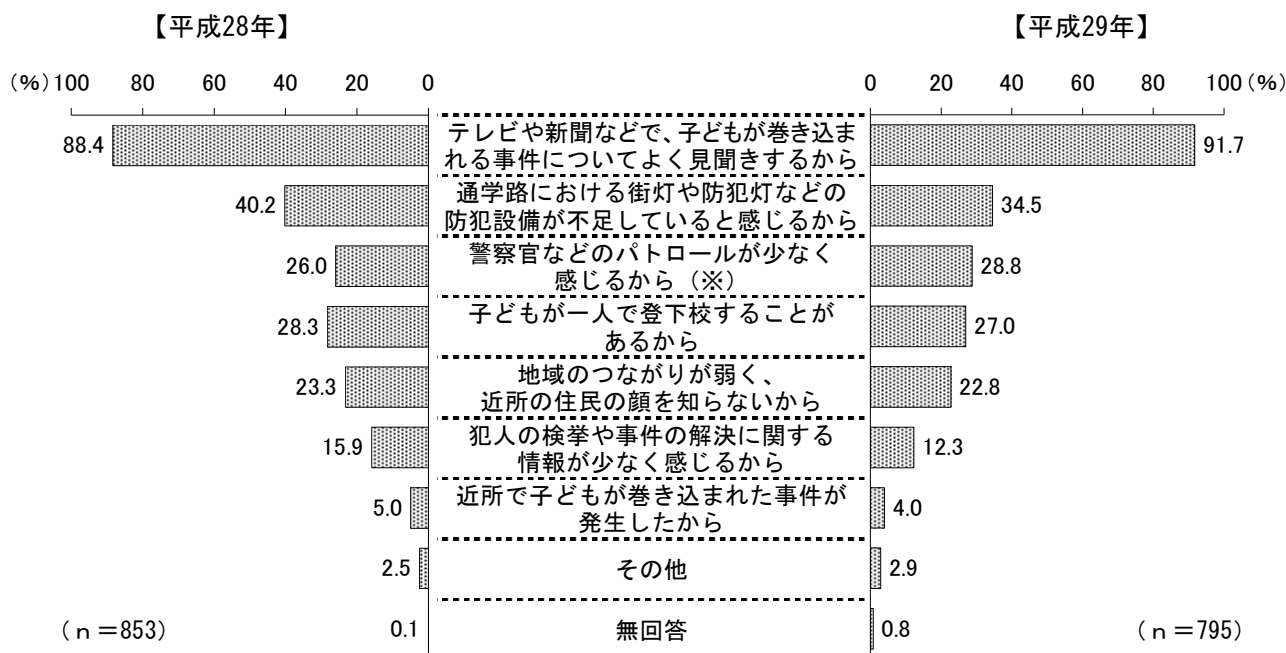
(2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由

(問33で選択肢「子どもに対する犯罪」を選んだ方のみお答えください)

問33-1 あなたが、子どもに対する犯罪に不安を感じる理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=795]



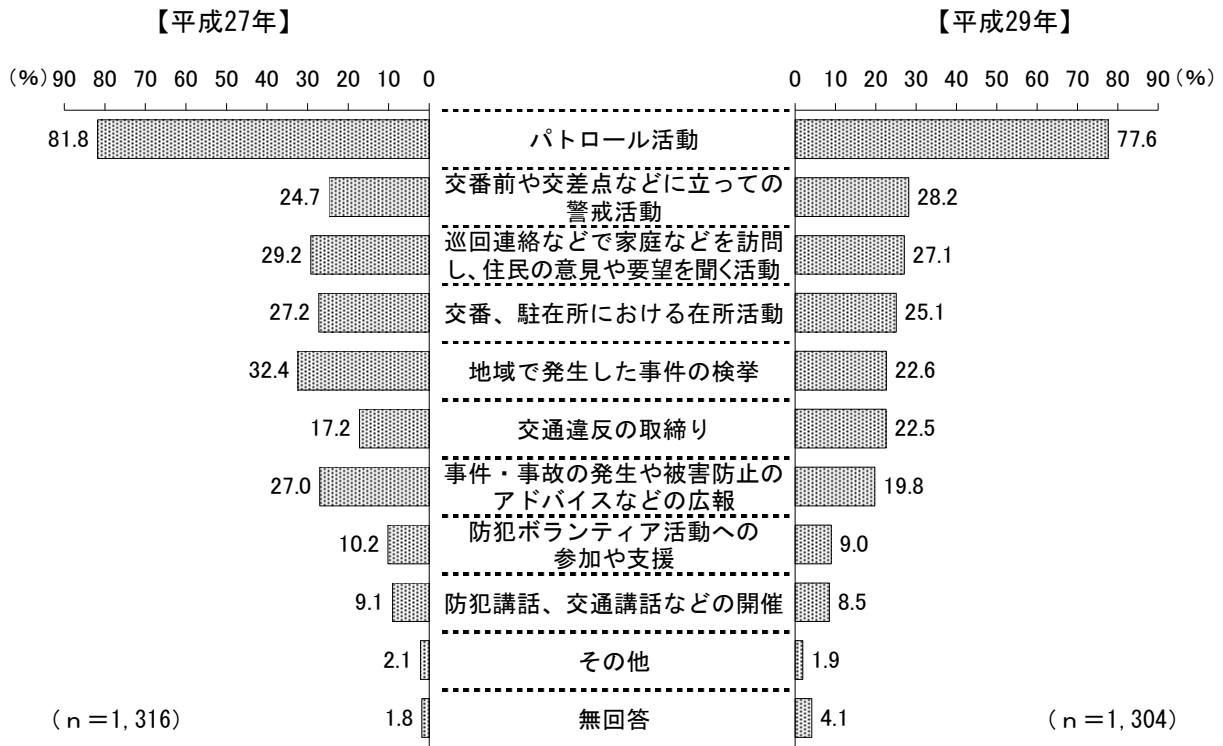
(※) 「警察官などのパトロールが少なく感じるから」の選択肢は、平成28年では「警察官や警察スクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」としていた。

- ・全体で見ると、「テレビや新聞などで、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」(91.7%)が9割を超えて最も高く、次いで「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」(34.5%)、「警察官などのパトロールが少なく感じるから」(28.8%)、「子どもが一人で登下校することがあるから」(27.0%)、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」(22.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性〉(37.9%)が〈男性〉(28.9%)より9.0ポイント高くなっている。「犯人の検挙や事件の解決に関する情報が少なく感じるから」では〈男性〉(14.0%)が〈女性〉(10.3%)より3.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性65～69歳〉が49.0%と高くなっている。「警察官などのパトロールが少なく感じるから」では〈女性70歳以上〉が43.4%と高くなっている。「子どもが一人で登下校することがあるから」では〈男性70歳以上〉が38.4%と高くなっている。
- ・前回(平成28年)の調査結果と比較すると、「テレビや新聞などで、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」が3.3ポイント増加している。一方、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」が5.7ポイント、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報が少なく感じるから」が3.6ポイント、それぞれ減少している。

(3) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問34 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,304]



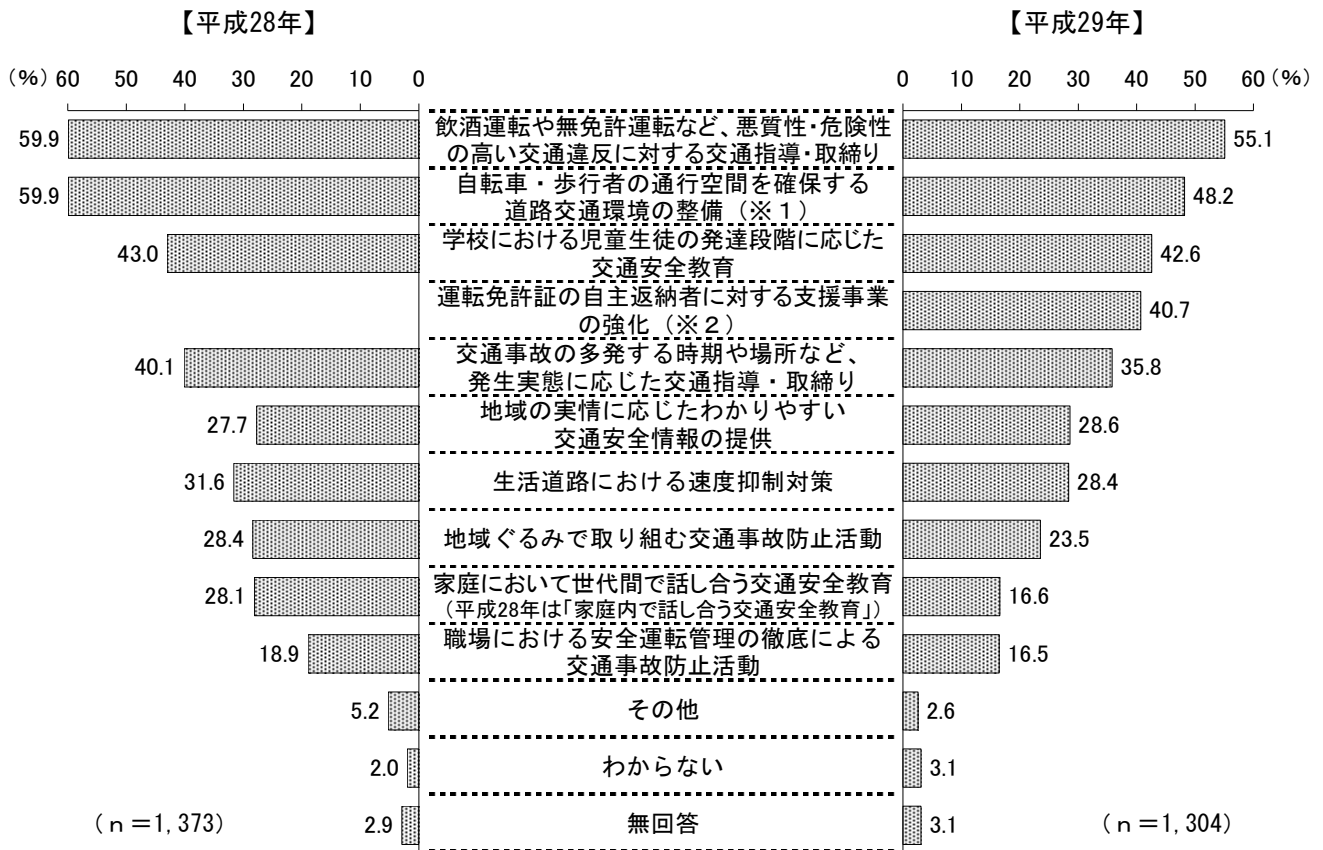
- ・全体で見ると、「パトロール活動」(77.6%)が8割近くで最も高く、次いで「交番前や交差点などに立っての警戒活動」(28.2%)、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(27.1%)、「交番、駐在所における在所活動」(25.1%)、「地域で発生した事件の検挙」(22.6%)、「交通違反の取締り」(22.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性〉(33.6%)が〈女性〉(21.7%)より11.9ポイント高くなっている。「パトロール活動」では〈女性〉(81.6%)が〈男性〉(75.6%)より6.0ポイント高くなっている。「交番、駐在所における在所活動」では〈男性〉(28.5%)が〈女性〉(22.7%)より5.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性70歳以上〉が41.2%と高くなっている。「交番、駐在所における在所活動」では〈男性50歳代〉が36.2%と高くなっている。「地域で発生した事件の検挙」では〈女性20歳代〉が32.8%と高くなっている。「交通違反の取締り」では〈女性70歳以上〉が32.7%、〈男性20歳代〉が31.8%と高くなっている。
- ・平成27年の調査結果と比較すると、「交通違反の取締り」が5.3ポイント、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」が3.5ポイント、それぞれ増加している。一方、「地域で発生した事件の検挙」が9.8ポイント、「事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報」が7.2ポイント、「パトロール活動」が4.2ポイント、それぞれ減少している。

(4) 交通事故を抑止するための対策

問35 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,304]



(※1) 「自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」の選択肢は、平成28年では「歩道や自転車通行帯など、自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」としていた。

(※2) 「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」の選択肢は、今回調査で追加した選択肢である。

- 全体でみると、「飲酒運転や無免許運転など、悪質性・危険性の高い交通違反に対する交通指導・取締り」(55.1%)が5割半ばで最も高く、次いで「自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」(48.2%)、「学校における児童生徒の発達段階に応じた交通安全教育」(42.6%)、「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」(40.7%)、「交通事故の多発する時期や場所など、発生実態に応じた交通指導・取締り」(35.8%)の順となっている。
- 性別でみると、「生活道路における速度抑制対策」では〈男性〉(32.1%)が〈女性〉(25.7%)より6.4ポイント高くなっている。「職場における安全運転管理の徹底による交通事故防止活動」では〈男性〉(20.0%)が〈女性〉(13.8%)より6.2ポイント高くなっている。
- 性/年齢別でみると、「飲酒運転や無免許運転など、悪質性・危険性の高い交通違反に対する交通指導・取締り」では〈女性30歳代〉が67.1%と高くなっている。「自転車・歩行者の通行空間を確保する道路交通環境の整備」では〈女性50歳代〉が57.7%と高くなっている。「学校における児童生徒の発達段階に応じた交通安全教育」では〈女性30歳代〉が57.9%と高くなっている。「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」では〈男性20歳代〉が56.8%と高くなっている。
- 前回(平成28年)の調査結果との比較は、一部の選択肢が追加・変更されているため参考にとどまるが、上位3項目に大きな変化はみられない。また、今回調査で新たに選択肢に追加された「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」は、4割を超えている。

平成29年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成29年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田 1 - 1 - 20
電話 (028) 623-2158